

エルサルバドル国  
エルサルバドル観光省 (MITUR)

エルサルバドル国  
東部地域観光開発能力強化プロジェクト

事業完了報告書

要 約

平成 25 年 7 月  
(2013 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

産 公
J R
13-111

エルサルバドル国  
エルサルバドル観光省 (MITUR)

エルサルバドル国  
東部地域観光開発能力強化プロジェクト

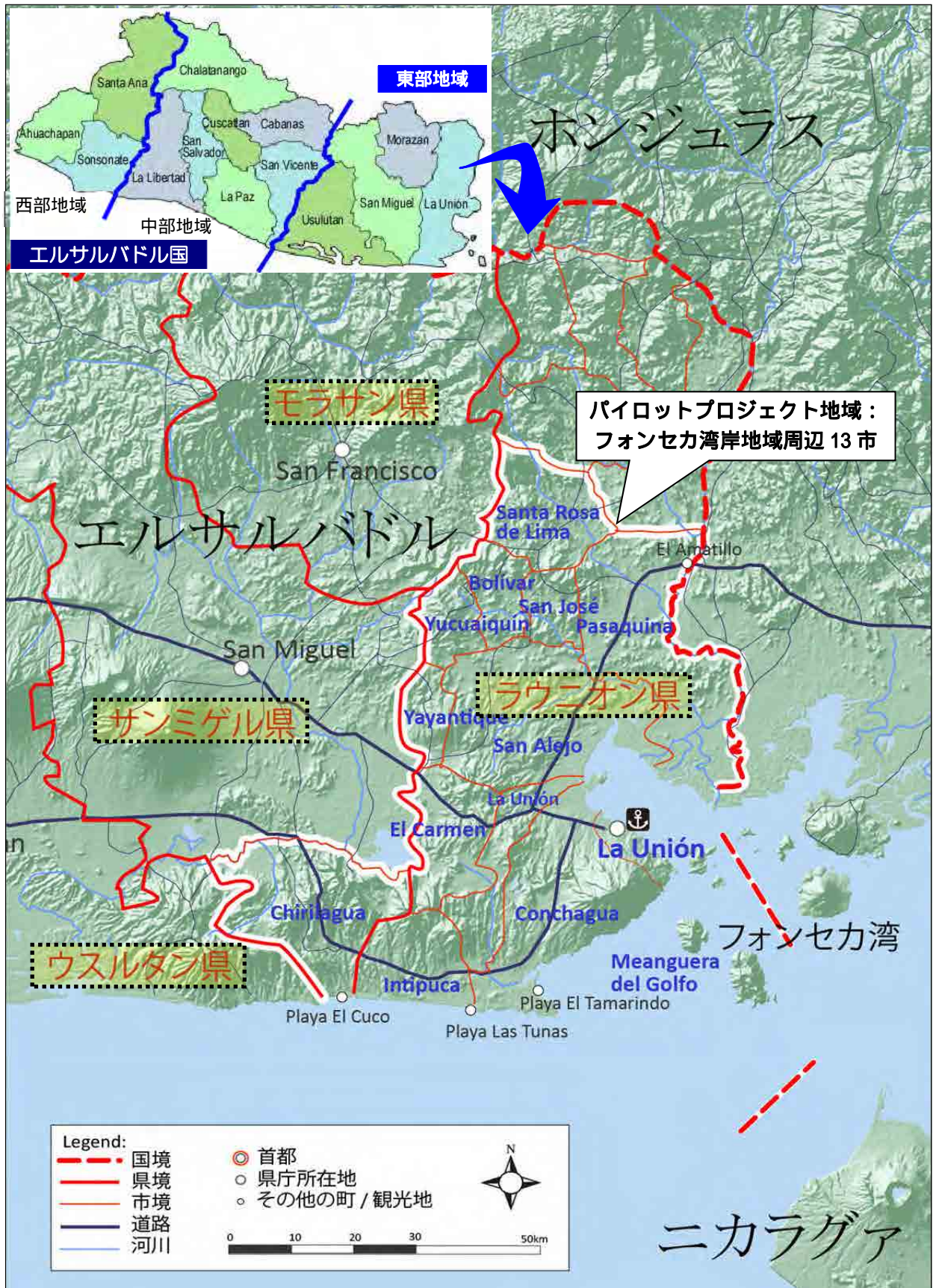
事業完了報告書

要 約

平成 25 年 7 月  
(2013 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

株式会社 オリエンタルコンサルタンツ



「エルサルバドル国東部地域観光開発能力強化プロジェクト」対象地域  
 出典： JICA プロジェクトチーム

## 目次

第1章 プロジェクトの概要 .....	1
1.1 本プロジェクトの背景と目的 .....	1
1.2 プロジェクト目標 .....	1
1.3 上位目標 .....	1
1.4 プロジェクトの成果 .....	1
第2章 活動実施スケジュール .....	1
第3章 プロジェクトの成果 .....	3
成果1：東部地域の観光開発の方向性が導き出される（ガイドライン） .....	3
活動1-1：東部地域における観光開発に関する現状調査 .....	3
活動1-2：東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析 .....	6
活動1-3：東部地域における観光開発の指針案を策定する .....	8
成果2：パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を 通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する .....	9
活動2-1：パイロットプロジェクトの選定基準を作成する .....	9
活動2-2：パイロットプロジェクトを選定し、実施する。 .....	9
活動2-3：パイロットプロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、 教訓をひき出す。 .....	23
成果3：パイロットプロジェクト地域の CDT/ADT の能力が向上する .....	37
活動3-1：CDT/ADT やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する .....	37
活動3-2：CDT/ADT において規約や定款の作成もしくは改善を行う .....	42
活動3-3：大学や NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と CDT/ADT の ネットワークを強化する .....	43
活動3-4：CDT/ADT 相互の交流（第三国研修を含む）を強化する .....	43
活動3-5：関係する CDT/ADT ごとに観光開発に関するコンセプトを作成する .....	45
活動3-6：CDT/ADT のドナー機関や NGO に対する資金協力を含む支援依頼に かかるプロポーザル作成能力を強化する .....	45
成果4：MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の CDT/ADT 支援 能力が向上する（MITUR/CORSATUR の能力向上） .....	46
活動4-1：MITUR 及び CORSATUR の CDT/ADT とのコミュニケーション能力を 強化する .....	46

活動 4-2： MITUR 及び CORSATUR による、他ドナーや NGO からの資金提供を受けるために必要な CDT/ADT のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する .....	46
活動 4-3： MITUR 及び CORSATUR は、パイロットプロジェクト地域において法人格を持たない CDT の法人化を行う .....	47
成果 5： CDT/ADT の活動モデルが開発され、東部地域に普及される .....	47
活動 5-1： 成果 1 から 4 を通じて、CDT/ADT 能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する .....	47
活動 5-2： 東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する .....	49
第 4 章 投入実績 .....	51
4.1 専門家派遣実績 .....	51
4.2 研修員受入実績 .....	51
4.2.1 本邦研修 .....	51
4.2.2 第三国研修 .....	53
第 5 章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓 .....	54
第 6 章 PDM の変遷 .....	56

## 図 目 次

図2-1 作業工程の実績 .....	2
図3-1 フォンセカ湾岸地域周辺 13 市における人口および人口密度 .....	5
図3-2 東部地域におけるポテンシャルの高いエリア .....	7
図3-3 現地調査において確認された観光資源 .....	8
図3-4 パイロットプロジェクトの選定フロー .....	10
図3-5 モニタリングおよび評価のスケジュール .....	23
図3-6 活動モデルの枠組み .....	48
図3-7 東部地域の観光開発の推進体制 .....	49

## 表 目 次

表3-1 観光開発コンセプトにおける 13 市の優先プロジェクトと支援実績 .....	45
---	----

## 第1章 プロジェクトの概要

### 1.1 本プロジェクトの背景と目的

本プロジェクトは MITUR および CORSATUR を実施機関として、エルサルバドル国（以下「エ」国）東部地域において官民連携による地域コミュニティに裨益する持続可能な観光開発の体制を構築することを目的とし、東部地域の CORSATUR 出先機関である CAT ラウニオンが管轄しているフォンセカ湾岸地域周辺 13 市をパイロットプロジェクトサイトとして、各市の観光関連業者、地域住民および地方自治体等で構成される CDT の運営能力強化にかかる支援を行うとともに、CDT を統括する CORSATUR の支援能力強化のための支援を行う。

また CDT、CORSATUR が連携して住民主導型の観光開発に関する指針案を策定し、策定された指針案をもとにパイロットプロジェクトサイトにおいて地域資源を活用した観光商品などの発掘や開発およびそのプロモーション活動にかかるパイロットプロジェクトを実施する。実施されたパイロットプロジェクトをモニタリングし、その経験をモデルとして東部地域へ普及させることを目的としている。

### 1.2 プロジェクト目標

東部地域において地域コミュニティに裨益する官民連携による持続可能な観光開発の体制を構築する。

### 1.3 上位目標

地域特有の資源を活かしたコミュニティ・ツーリズムが確立される

### 1.4 プロジェクトの成果

- 成果 1： 東部地域の観光開発の方向性が導き出される。(ガイドライン)
- 成果 2： パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する。
- 成果 3： パイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会の能力が向上する。(観光委員会と観光協会の能力強化)
- 成果 4： MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の観光委員会/観光協会支援能力が向上する。(MITUR/CORSATUR 能力強化)
- 成果 5： 観光委員会/観光協会の活動モデルが開発され、東部地域に普及される。(モデルの開発と普及)

## 第2章 活動実施スケジュール

本プロジェクトは 5 つの成果、17 の活動よりなり、これを 3 年次にわたって実施した。作業工程の実績を図 2-1 に示した。



## 第3章 プロジェクトの成果

### 成果 1：東部地域の観光開発の方向性が導き出される（ガイドライン）

#### 活動 1-1：東部地域における観光開発に関する現状調査

##### (1) 東部地域 4 県の概況

###### 地域の概況

- ▶ 「エ」国東部地域は、ウスルタン、サンミゲル、モラサンおよびラウニオンの 4 県よりなり、グアテマラ国とホンジュラス国から流れる「エ」国最大の河川、レンパ川の左岸側に位置し、面積は 7,728km<sup>2</sup>(「エ」国土の 36.7%)で、2010 年の人口は 1,283 千人(「エ」国総人口の 20.8%)である。
- ▶ 同国の最貧困地域の一つで米国をはじめとした海外人口流出の最も多い地域であるが、最大の畜産地帯でもあり、広大な土地、豊富な水資源をはじめ観光・鉱物資源も含めて資源ポテンシャルは高い。
- ▶ 東部地域 4 県の自然的、社会経済的条件は異なり、「エ」国第 4 の都市サンミゲル(人口 22 万人)を抱えるサンミゲル県および首都に近く商業活動の盛んなウスルタン県は都市的性格が強く、これに対して内陸部のモラサン県、辺境地のラウニオン県は経済活動に占める農牧業の割合、および農村人口割合が高く、農村的性格が強い。
- ▶ パイロットプロジェクト地域を構成するラウニオン県は、「エ」国の東端にニカラグア、ホンジュラスと国境を接して位置し、長い海岸線を有する一方で、その背後地に広大な農村地域を抱えている。

##### (2) 「エ」国における CDT の概要

- ▶ 観光委員会(CDT: Comité de Desarrollo Turístico)は、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループであり、CORSATUR の法律に基づいて各市に設置され、特定の政党や宗教とは関わりを持たない非営利組織として「エ」国籍の委員会として設立する。
- ▶ 法人化すると観光協会(ADT: Asociaciones de Desarrollo Turístico)と名称が変わり、寄付行為など金銭の収受が可能になり、国内外の援助機関へプロポーザル申請ができるようになる。
- ▶ 全国 262 市のうち、2012 年 10 月末時点で、103 市(39%)において CDT が設立されており、CDT が設立されていないのは 159 市である。
- ▶ 全国で法人化されているのはわずか 24 市(9%)であるが、CDT が設立されている市に対する法人化率は 23%となる。
- ▶ ラウニオン県についてみると、CDT 設立率はラパス県(73%)に次いで高く(67%)、法人化率は最も高く(28%)なっている。



- CORSATUR はその下部機関として観光公団出先機関(CAT)を全国に 6 事務所を構え、CAT は観光資源にまとまりのある地域を管轄している。
- そこには、未だ CDT が設立されていない市、CDT が設立された市、および CDT を法人化した市が混在している。
- CDT の中には CAT を通さずに CORSATUR の直接指揮下にあるものもある。
- CAT の中には、傘下の CDT を代表するような形で、地域 CDT が設立されているケースもある。
- 全国の 6 つの CAT の中に地域 CDT があるのは 3 つであり、その内 CAT ルータデパスおよび CAT ラウニオンの 2 つが法人化されている。即ち、プロジェクト対象地域であるラウニオン地域は、地域 CDT の法人化という点では先を進んでいる。

### (3) パイロットプロジェクト地域の概況

#### 13 市における人口および人口密度

- パイロットプロジェクト対象地域のフォンセカ湾岸地域周辺 13 市は、ラウニオン県の 12 市、サンミゲル県の 1 市、計 13 市よりなる。ラウニオン県には 18 市あるので、67%の市がフォンセカ湾岸地域周辺 13 市を構成している。
- 2007 年における 13 市の人口は約 25 万人であり、最も多くの人口を抱えているのがコンチャグァ市で 48 千人、これにラウニオン市の 42 千人が次いでいる。海岸を有する 6 市合計の人口が約 17 万人で、全体の約 70%を占めている。人口が 1 万人に満たない市が 5 市あり、これらの合計が 29 千人で、全体の 12%を占める。
- フォンセカ湾岸地域周辺の 13 市の人口密度は、ラウニオン県を約 20%上回っている。
- 地域で人口増を引き受ける経済的基盤が弱いために、人口の伸びが極めて低い。また、ホテルの利用率が低いことから、他県に比べて観光客を呼び込むためのインフラ整備や観光開発整備が遅れている。
- 一方地域内に目を転じると、13 市内の条件も海岸地域と内陸部では異なり、相対的には前者の方がより恵まれていることが明白である。

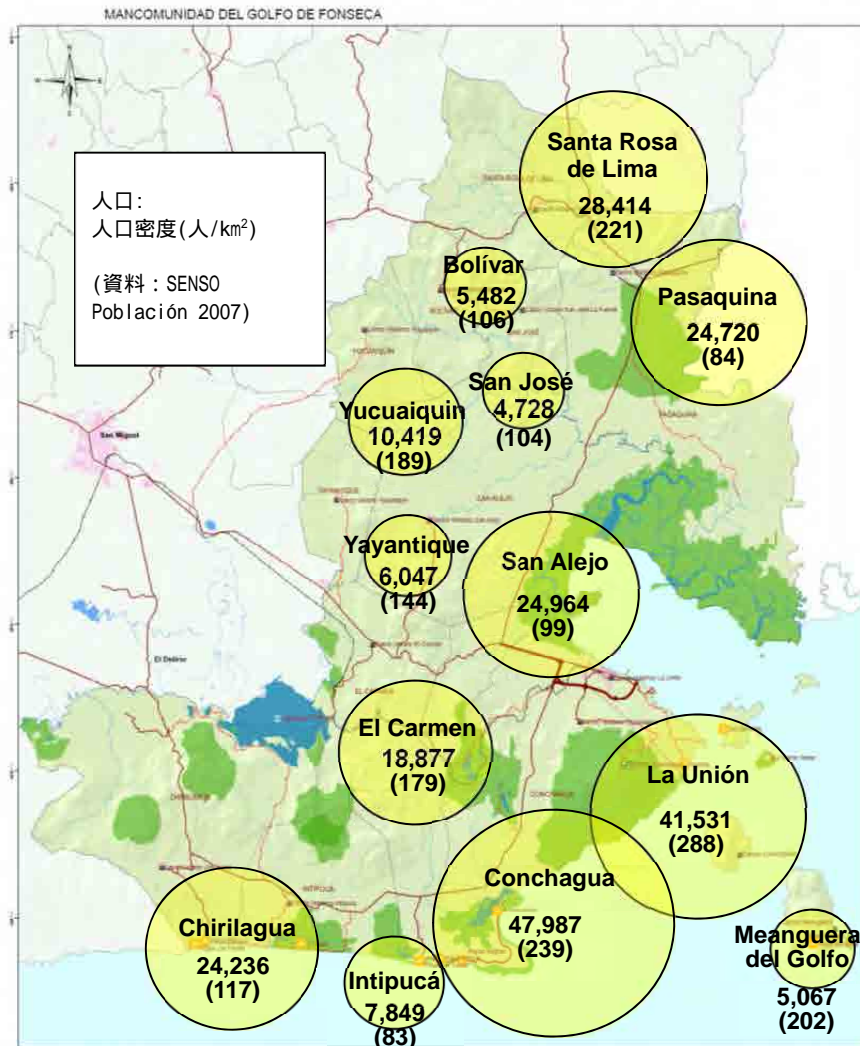


図 3-1 フォンセカ湾岸地域周辺 13 市における人口および人口密度

#### (4) フォンセカ湾岸地域周辺 13 市の CDT の概況

##### CDT の設立状況

- 当該地域における CDT の設立は 2007 年 9 月に始まり、先ず地域 CDT を含めて 6 つの CDT が設立され、翌年にはその全てが法人化された。本プロジェクトが開始された 2010 年 8 月時点では、7 市には CDT がなかったが、プロジェクトの進捗に合わせて、2012 年中に全ての市に CDT が設立されたことになる。

##### CDT に対応する市の担当課および担当者

- 2012 年 3 月の市長選挙で市長改選のあったエルカルメン市では、新市長が観光課を創設した。ラウニオン市、サンホセ市およびパサキナ市でも観光課創設の動きはあるが、2012 年 12 月時点では具体化していない。
- 市役所における CDT 対応の窓口は市の事情によって様々な部署となっており、統一されたものにはなっていない。

## 2012 年における CDT の活動実績と活動に対する市からの支援内容

### 【活動の内容】

- 活動の多くは、地域の宗教的祭、収穫祭、食のイベント、清掃など、どちらかという市が実施する活動に CDT が協力する、という形態が多くなっている。土曜日(あるいは日曜日)のイベントは、ラウニオン、パサキナ、およびメアングーラデルゴルフォで継続的に行われている。

### 【市役所からの支援】

- 市の活動の一環として実施していることから、資金や材料などの支援、あるいはスペース、テント、音響設備などイベント実施に必要なものが提供されている。

### 【会費】

- CDT のメンバーが会費として定額を徴収しているところはなく、コンチャグアで幹部が月当たり 1 ドルを収めているのが例外的事例となっている。即ち、会費を支払ってまで CDT のメンバーになるということはない、というのが実態となっている。

### 【活動状況】

- 活動の盛んな CDT がある一方で崩壊状態にある CDT があるなど、CDT の活動はさまざまであるが、全体としては低調である。

## 活動 1-2 : 東部地域におけるポテンシャルの高いエリアの分析

### 東部地域 4 県におけるポテンシャルの高い地域

- 東部地域の観光資源のポテンシャルについては、図 3-2 に示す回廊 E,F および G があり、MITUR/CORSATUR による今後の観光開発の重点地域となっている。
- 回廊 E はルータデパス、回廊 F は、ヒキリスコ湾 (Bahia de Jiquilisco) を中心とした海岸の観光ポテンシャル、回廊 G は、フォンセカ湾からサンミゲル市に繋がる観光ポテンシャルの高い地域である。今後、各市の観光開発計画においては、これらのポテンシャル地域との関連性を踏まえ MITUR/CORSATUR の観光開発の方針を確認しながら進めていくことが重要である。

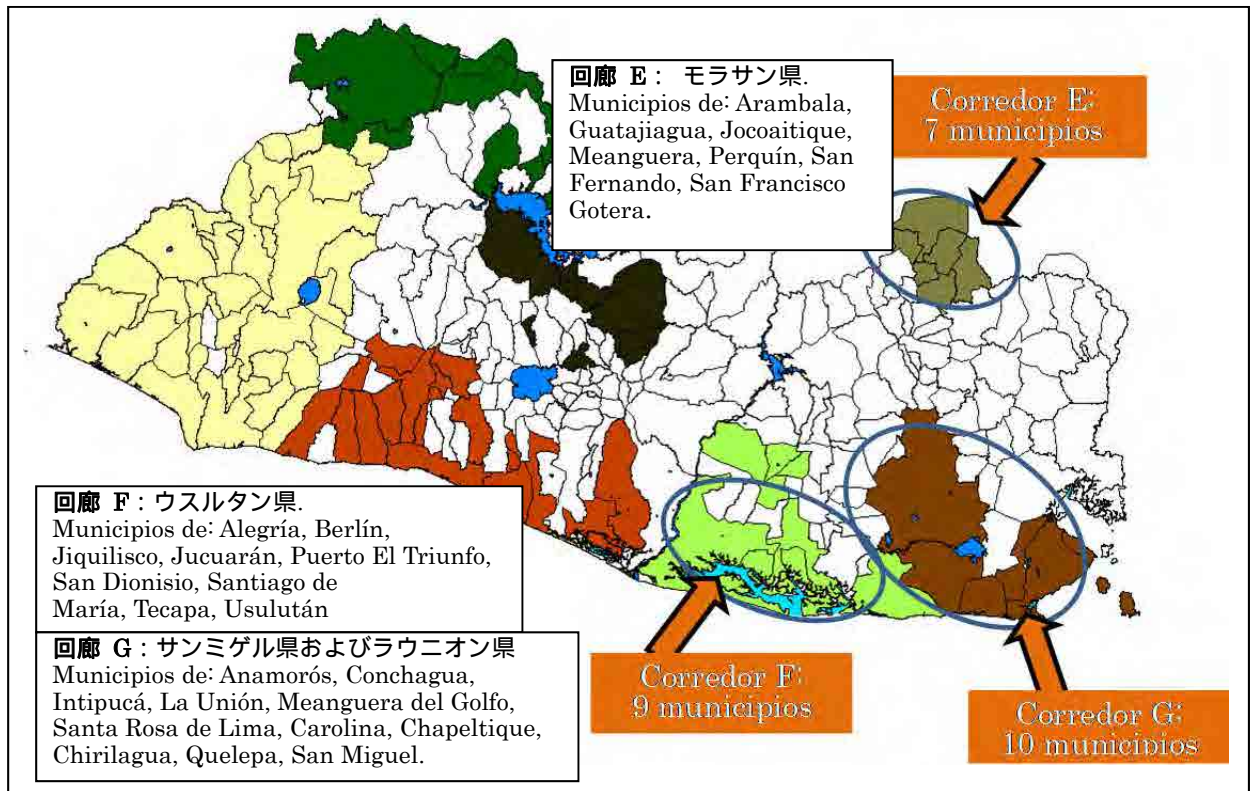


図 3-2 東部地域におけるポテンシャルの高いエリア

### フォンセカ湾岸地域 13 市におけるポテンシャル

- ▶ 全ての市が回廊との係りを持つことは難しく、市独自の観光資源をもつことが重要になる。JICA プロジェクトでは 13 市における観光資源のポテンシャルを認識するところからスタートした。
- ▶ 海岸地域には、海岸そのものの他に島々、干潟、マングローブ、漁師まちなど「太陽とビーチ」に関係する観光資源の他に、火山と丘陵地も海岸からの連続性を保っており、面的に広い範囲で観光資源が認識されている。内陸部においてはそれぞれのコミュニティに関する「農村文化」が特徴的で、内陸部の観光資源は多くない。
- ▶ ホンジュラスとの国境地域には「国境ルート」がある。これ以外にも、観光開発に関するコンセプトの策定を通じて提案された観光資源も各市にあり、地域には、まだ埋もれた観光資源があると推量できる。
- ▶ しかしながら、これらの観光資源のポテンシャルは必ずしも地域住民にとっては共通の認識が持たれていない。そのため、観光開発・振興に対する地域住民の認識度が十分でなく、観光が地域の経済社会的発展に適切に活用されていないことが課題となっており、関係者（官民）にて観光開発を再認識し、取り組んでいくことが重要となっている。

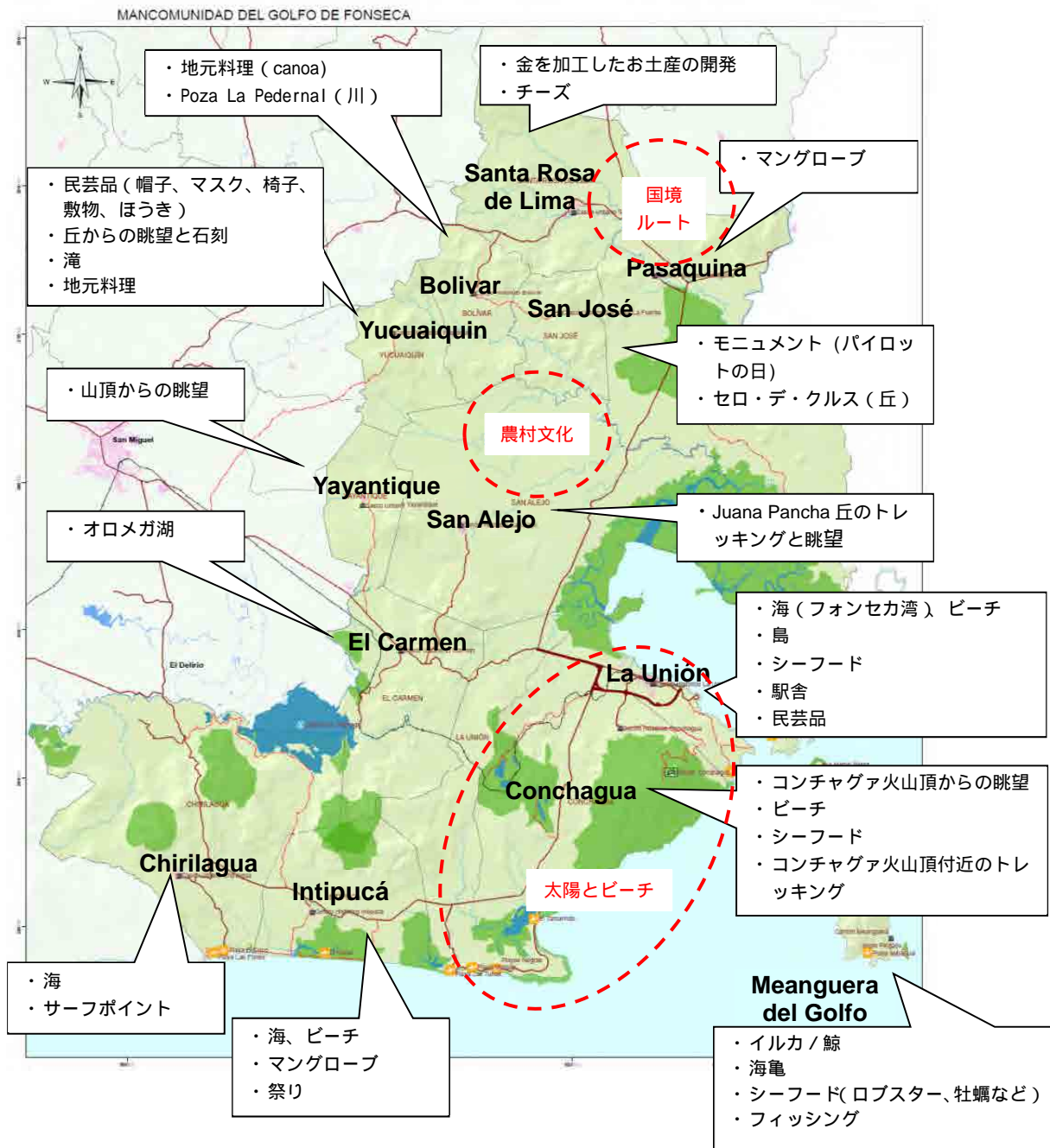


図 3-3 現地調査において確認された観光資源

### 活動 1-3 : 東部地域における観光開発の指針案を策定する

指針案は、現地調査 (参加型ワークショップ) で明らかとなった地域の課題や観光開発の方向性を国家計画と照合・調整して作成し、2011年7月25日に行われた第2回JCC会議での承認を経て確定した。

承認された指針案 (ガイドライン) の骨子を以下に示す。

## 指針案（ガイドライン）

- 1) 競争力の強化
  - a. 国内競争力の育成・強化
  - b. 国際競争力の育成・強化
  - c. フォンセカ湾地域ブランドの確立
- 2) 競争力を高めるための地域住民の組織化と意識の向上
  - a. 各市 CDT の設立と法人化
  - b. 官民連携の強化
  - c. 住民の観光への参加意識の向上
- 3) 観光開発と環境・文化保全との調和
  - a. 観光地の環境整備（クリーンアップ）
  - b. エコツーリズムの推進
- 4) 東部地域開発プログラムとの連携
  - a. ラウニオン港
  - b. MEGATEC ラウニオン校

## 成果 2：パイロットプロジェクト地域におけるパイロットプロジェクト実施を通じて地域独自の資源を活用した観光開発に係る知識が向上する

### 活動 2-1：パイロットプロジェクトの選定基準を作成する

以下のパイロットプロジェクトの選定基準は、参加型ワークショップにおける CDT の意見、ならびに CORSATUR との意見調整により定められ、2011 年 3 月 8 日に行われたプロジェクト実施委員会で承認された。

1. RELEVANCIA/RELEVANCE（関連性）：本プロジェクトとの整合性が高いこと
2. IMPACTO/IMPACT（効果）：モデル性があり、成果が見えること
3. MADUREZ/MATURITY（成熟度）：事業主体が明確で、実現性の高いこと

### 活動 2-2：パイロットプロジェクトを選定し、実施する。

#### (1) パイロットプロジェクトの選定

##### パイロットプロジェクトの選定フロー

パイロットプロジェクトの選定フローを図 3-4 に示す。

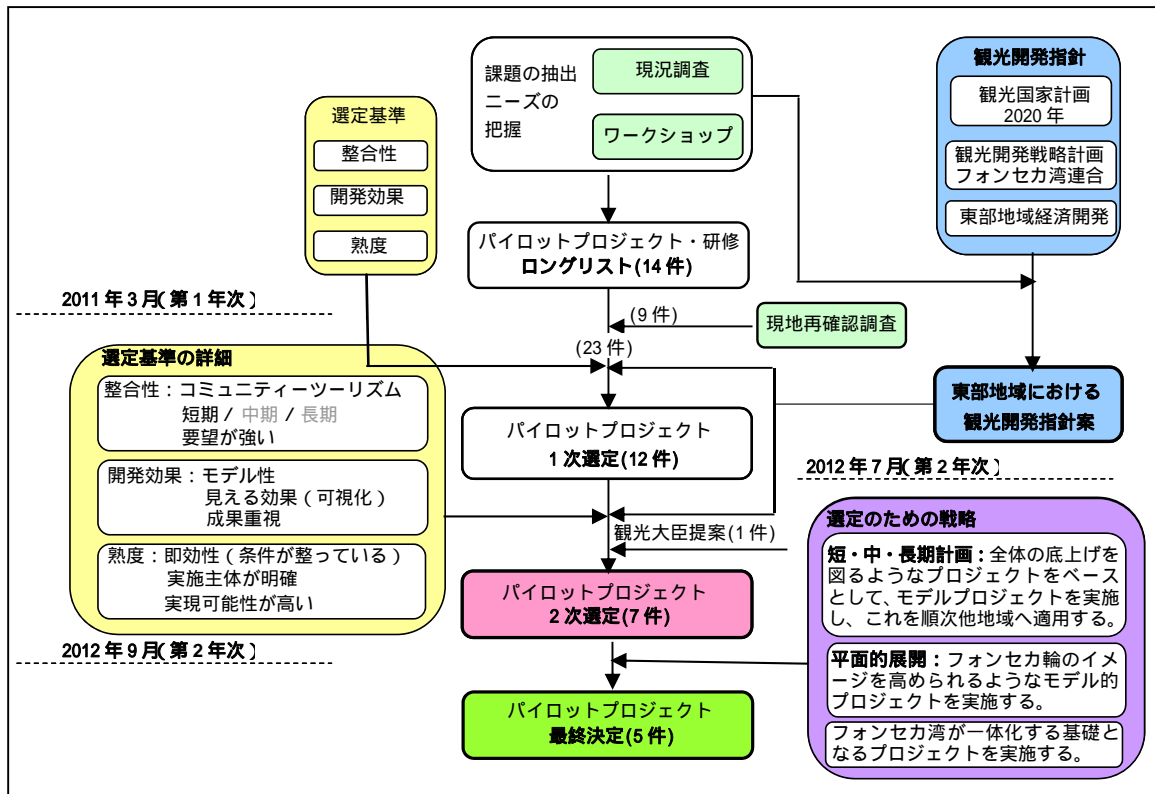


図 3-4 パイロットプロジェクトの選定フロー

### パイロットプロジェクトおよび研修のロングリストの作成

第一年次に行われた「現況調査」と「参加型ワークショップ」の結果として、各地域の課題やニーズが把握され、パイロットプロジェクトおよび研修のロングリストが作成された。

### 現地再確認調査による追加リスト

第二年次において、各 CDT を訪問して、パイロットプロジェクトおよび研修の希望案件を募ると同時に、CDT の推薦する有望な観光資源の詳細を調査し、第一年次のロングリストに追加した（合計 23 件）。

### パイロットプロジェクトの1次選定

実現性の難度や対象分野のバランスを考慮しながら、第 1 次選定対象とする 12 案件を決めた。さらに、民芸品は研修で対応することとし、スポーツのように優先度の低いものは不採用となり、12 件から 7 件に絞られた。

### パイロットプロジェクト選定のための観光開発戦略の検討

7 件のパイロットプロジェクト候補案から 5 件を確定するために当該地域の観光開発の戦略を以下の通り検討することとした。

<p><b>戦略 1: プロジェクトタイプの長期的変化</b></p>	<p><b>戦略 1 :</b></p> <p>時間軸で見ると、まず、開発の遅れている観光地としての基礎的な条件整備を長期的に実施していくことが必要である。その一方で、短期的にはモデルとなるプロジェクトを実施し、そのモデルを拡大していく、という手法が必要になる。</p>
<p><b>戦略 2: プロジェクトサイトの位置的变化</b></p>	<p><b>戦略 2 :</b></p> <p>平面的に見ると、まず、比較的観光関連施設の整っている、プロジェクトを計画しやすい地域でモデル的にプロジェクトを先行させ、これを隣接地域に拡大していく。当該地域にこの考えを当てはめると、フォンセカ湾岸地域がこれに該当する。フォンセカ湾は知名度も高いことから、海岸地域でモデルとなるプロジェクトが実施できれば効果的である。</p>
<p><b>戦略 3: フONSEカ湾を一体化する基礎となるプロジェクト</b> (お互いの違いを知り、地域としても連携できる)</p>	<p><b>戦略 3 :</b></p> <p>フォンセカ湾岸地域の 13 市が一つの地域としてまとまっていくためには、これらの市の連帯感を意識できるようなプロジェクトが効果的である。</p>

**パイロットプロジェクトの決定**

MITUR/CORSATUR と協議しながら観光開発戦略を考慮のうえ最終的なパイロットプロジェクトの候補として、下表に示す 7 つのプロジェクトを選定した。



パイロットプロジェクト名	採択の結果
<b>戦略1：観光地域の基礎条件を改善するためのプロジェクト</b>	
》観光標識（対象：ラウニオン、コンチャグア、インティпка）	採択
》観光地図（対象：サンタロサデリマ、ラウニオン、コンチャグア）	採択
》ラウニオン駅舎情報センター	不採択
》観光環境教育（対象：パサキナ）	採択
<b>戦略2：フォンセカ湾のブランドを高めるモデルプロジェクト</b>	
》マングローブツアー（対象：インティпка）	採択
》フォンセカ湾島巡りツアー（対象：ラウニオン、メアングーラデルゴルフォ、コンチャグア、サンアレホ）	採択
<b>戦略3：フォンセカ湾を一体化するプロジェクト</b>	
》グルメコンテスト	不採択

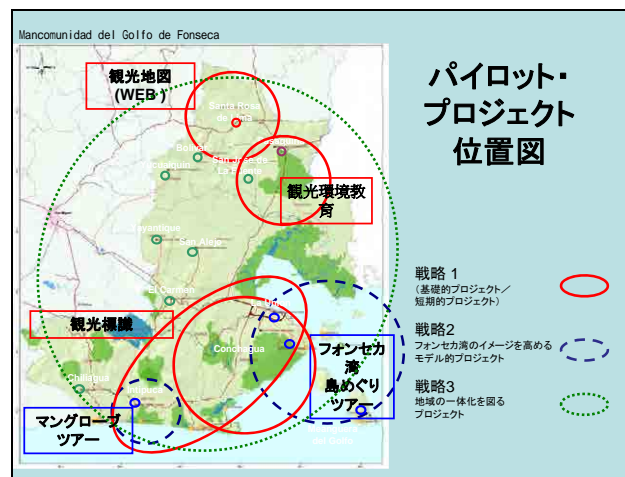
これらの中から、MITUR/CORSATUR 内部で協議をし、上表に示す5つのパイロットプロジェクトが決定された。不採択となった2件の理由は以下のとおりであり、いずれも観光大臣の意向が強く反映されている。

「ラウニオン駅舎情報センター」は、ラウニオン市内にある旧駅舎を利用した観光情報センターの整備であるが、資金的にも工期的にもパイロットプロジェクトではやや対応が難しいとの判断があった。

また、観光大臣は、第2回JCC会議の席で、今後観光産業の裾野を広げていくためには観光教育は重要であると発言しており、残った「グルメコンテスト」と比較した場合、教育案件を優先したものである。

### パイロットプロジェクトの位置図

下図は、パイロットプロジェクトの位置図を示したものである。



### (2) パイロットプロジェクトの実施計画

5件のパイロットプロジェクトの確定後、各プロジェクトの担当者を決め、プロジェクトの仕組み、関係者のリストアップ、予算の検討などを行い、その後各プロジェクトのPDM、POを作成し、2011年11月から2012年2月にかけて関係するCDTにおいてキックオフミーティングが行われ、プロジェクトが開始された。

以下に、各パイロットプロジェクトの仕組み・計画を説明する。

## I：観光地図（WEB）

（対象市：ラウニオン、コンチャグア、サンタロサデリマ）

### 【観光地図作成プロジェクトの背景】

観光地の正確な情報が整備されること、特に、観光資源、レストラン、ホテル、ショッピングなど観光客が必要とする基本データが掲載された地図が整備されると、a)観光客の満足度向上、b)受け入れ住民の観光意識の向上、という二つの側面でプラス効果がある。

観光資源に比較的恵まれ、かつ、CDTの活動も活発である3市（ラウニオン、コンチャグア、サンタロサデリマ）において、観光地図作成プロジェクトを行う。

### 【パイロットプロジェクトの目的と基本方針】

パイロットプロジェクトの目的は、「対象 CDT は観光地図システムの運用を継続的にできる」ことである。

一度作成された地図を維持、更新していくことは CDT にとって不可欠であることから、観光地図作成のための持続可能なシステムを構築する。

### 【目標達成のための手法】

上記目標を達成するための情報収集、観光地図のデザインや地図作成作業は、ワークショップ、ミーティング、聞き取り調査等を通じて行なわれる。これらワークショップ等で、マーケットのみならず観光客を受け入れる住民側のニーズを把握し、観光振興に適した成果品が作り出されると同時に、地域のキャパシティビルディングも達成できる。

### 【関係者の役割分担】

アクター	役割
地域 CDT	プロジェクト実施責任者であり、増刷できるメカニズムをつくり、長期的にプロジェクトを維持する。
CDT	観光地の情報提供とロゴの選定。
市	経験の少ない CDT への協力。
CORSATUR	CORSATUR の成功事例となるよう、プロジェクトの進捗状況の把握にあたる。情報および基本方針を提供する。
CAT ラウニオン	プロジェクト実施にあたり CDT を支援する。
地域住民	プロジェクトへの協力。
CONAMYPE のモデレーター	地図化に必要な手法を提供するワークショップを実施し、地図情報を作成する。
学生	情報収集を支援する。
観光地図業者	参加者の指示とおりにツールのデザインを行う。CDT と密接に連絡をとりあい、マーケティングに関する専門的なアドバイスを提供する。
JICA プロジェクトチーム	他のアクターと協力して CDT の支援にあたる。CDT および地域住民をプロジェクトに参加させるためのワークショップをアレンジし、資金援助を行う。

【プロジェクト実施工程】

活動	2011			2012											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A. マッピングおよび情報収集の手法の決定															
B. 地域の既存ネットワークを活用した観光地図の配布方法の決定															
C. CDT による観光地図の更新方法とモニタリング方法の検討															

【プロジェクトの実施に要する費用（実績）】

支出項目	第二年次(\$)	第三年次(\$)	合計(\$)	備考
地図作成・印刷	9,500	-	9,500	3市×5000部
ワークショップ	3,500	5,200	8,700	ワークショップ開催に必要な会場とファシリテータ費
WEB サイト作成	3,600	-	3,600	情報システム、HP デザイン
マニュアル作成	-	2,300	2,300	デザイン、印刷 100部
合計	16,600	7,500	24,100	

【プロジェクト実施の留意事項】

地元関係者を巻き込んだ参加型手法で地図を作成することにより、地元住民は地域の特徴を理解し、象徴となるプロジェクトの抽出が可能になるよう留意する。CDT は、これら一連のプロセスへの地域住民の参加を呼びかけ、必要な調整業務を行うことで、そのポジションを高め、観光地の主要アクターへの組織力や影響力、調整力が強化されるよう留意する。

【モニタリングの留意事項】

CDT は、毎月観光地図のモニタリングを実施し、CAT ラウニオンに結果を報告する。地図に取り入れる観光資源・観光スポット、関係者のモニタリングを行うことで、CDT は地域住民の成長や観光産業への関わりを強めていく状況が確認され、モチベーションが高まるように留意する。

## II：観光標識整備

(対象市：ラウニオン、コンチャグア、インティプカ)

【観光標識整備の背景】

ラウニオン、コンチャグアおよびインティプカにおいては、海岸を有し、比較的魅力的な観光資源は存在するものの、観光資源の知名度は低い。その要因の一つとして、一部で観光標識（観光客に優しい施設）の整備が遅れていることが指摘されている。

2011年、CORSA TUR が本件対象地域内に新たに38個の観光標識を設置したが、未だ必要な場所における観光標識整備が遅れている。

一方、東部地域では CORSATUR、公共事業省（MOP）、環境 NGO（CODECA）のプロジェクトなどで設置された標識は系統的ではなく、老朽化、落書き、破損などにより見栄えが良くないことが挙げられている。

#### 【パイロットプロジェクトの目的および基本方針】

本件を通じて地元 CDT の意見を汲み取り、CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT のコミュニケーションを密にすることで、適所に効果的で魅力的な観光標識が整備され、観光地へのアクセスが改善されることが期待される。

また、CORSATUR と CAT ラウニオンの指導の下、CDT の手で設置された観光標識の維持管理体制を構築することで、維持管理計画の実践を通じて、地域のイメージが向上され、観光客に対するホスピタリティを地域全体で高めていくことが期待される。

#### 【目標達成のための手法】

##### （地域の観光資源の認識）

各市の持つ観光資源・観光施設を再確認するため、CAT ラウニオンおよび CDT の間で打合せを実施し、その結果を CORSATUR と情報共有する。

##### （観光標識で案内する観光資源・観光施設の選定）

各市において CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の間で観光資源・観光施設を整理し、観光標識整備の候補地を選定していく。

##### （新たな観光標識のデザイン）

CORSATUR が持つ既存のマニュアルを参照しながら、CDT の意見も踏まえ、国内外の事例も参考とし、より効果的で地域の風土に調和されたデザインの作成を目指す。

##### （観光標識の設置）

標識の設置は CDT 自らが実施することを検討する。CDT が設置工事に携わることにより観光標識を大切にする意識が高まり、それが良好な維持管理につながることも目的の一つである。

##### （観光標識の維持管理）

CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT が設置された観光標識ならびに既存の標識の維持管理項目を整理し、CAT ラウニオンおよび CDT が維持管理行動計画をつくり、それを実践することとする。

#### 【関係者の役割分担】

アクター	役割分担
CORSATUR	本プロジェクトを CORSATUR の実績とするために、常に全体の状況を把握する。
CAT ラウニオン	CORSATUR と連携し CDT を支援する。
CDT	プロジェクトの実施者
市	CDT と協働する
コミュニティ	CDT に協力する。
JICA プロジェクトチーム	関係者と協調しながら、CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT を支援する。

【プロジェクトの実施スケジュール】

	2011		2012											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1. 観光資源の認識	■													
2. 観光資源の選定		■												
3. 観光標識のデザイン			■	■										
4. 観光標識準備・設置				■	■	■	■	■						
5. 維持管理項目の整理							■	■						
6. 維持管理計画の策定								■	■	■				
7. 維持管理計画の実施									■	■	■	■		
8. 総括													■	

【プロジェクトに要するコスト（実績）】

支出項目	第二年次(\$)	第三年次(\$)	合計(\$)	備考
ラウニオン市棧橋の観光標識	-	3,200	3,200	材料費、加工費
サカティージョ島の観光標識	-	500	500	材料費、加工費
コンチャグア火山の観光標識	-	3,500	3,500	材料費、加工費
エルエステロンビーチの観光標識	-	2,100	2,100	材料費、加工費
維持管理マニュアル作成	-	600	600	3市×30部
合計	-	9,900	9,900	

【プロジェクト実施の留意事項】

CORSATUR が東部地域において今まで実施している観光標識整備の状況は、地元 CDT や CAT ラウニオンとのコミュニケーションが必ずしも十分ではない。

2012 年 3 月に全国市長選挙が実施されるため、CDT や CAT ラウニオンなど地元関係者と十分コミュニケーションを取り、情報を共有するよう留意する。

【モニタリングにおける留意点】

本パイロットプロジェクトを通じて、CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の能力強化を図ることが重要であり、あらゆる観点からその活動を常にモニタリングしていく。

### III：マングローブツアー

(対象市：インティブカ)

【パイロットプロジェクトの背景】

インティブカ市には、主にビーチやマングローブ林などの観光資源があり、観光開発が進むと、地域や地元企業が発展していくことが期待されている。この意味で、マングローブ林はエコツーリズム開発の大きなポテンシャルを秘めており、それまで一次的ニーズをまかなうためにだけマングローブ林を利用してきた地元住民が、観光資源としてマングローブ林を活用した新たなビジネスを創出し、収入の増加をはかることが期待されている。

## 【パイロットプロジェクトの目的と基本方針】

以下の戦略的目標の達成を通じて、プロジェクト目標「受益者はマングローブツアーを自立発展的に開発・促進することができる」を達成する。

- コミュニティグループのマネジメント能力と各省庁との協働を通じて官民連携体制の強化をはかる。
- 地域の資源や特徴を活かしたコミュニティ・ツーリズムを活用する。
- 競争力のある新たな観光商品を開発するとともに、コミュニティ・ツーリズムを促進するメカニズムを改善することによって、エコツーリズムが楽しめる地域として宣伝広報を展開する。

## 【目標達成のための手法】

### 実態調査:

CDT、インティプカ市、MITUR/CORSATUR、JICA プロジェクトチーム、地元住民が参加するワークショップを開催する。

### 管理体制の構築:

- (1) コミュニティ・ツーリズム先行事例視察:マングローブ林におけるパッケージツアーをどのように実施するかを学ぶために先行事例（西部地域の Barra de Santiago）を視察し、この経験を学ぶ。
- (2) 組織化：国内法にもとづく法人化手続き、規制等について地域組織の企業化に向けた環境づくりを行う。
- (3) 教育研修：顧客サービスに関する専門コースは、CONAMYPE、国際赤十字、Eco Experiencias（NGO）、MITUR/CORSATUR に支援を求める。
- (4) 地域のツアーガイド育成：現役ガイドの専門教育と、新人ガイドの育成を実施する。
- (5) 機材整備：カヤック等の機材を維持管理するために必要なメンテナンスキットと使用方法、保守・修理、保管方法に関する研修を行う。
- (6) また、CDT はオペレーションセンター、予約センター、機材置き場を整備することを予定している。

### マーケティング・販売戦略の策定:

- (1) 市場トレンドに合わせたロゴ、企業、パッケージ商品、WEB サイトのイメージ・デザイン
- (2) プロモーショングッズ（パンフレット、WEB サイトのデザイン、フライヤーなど）の製作、観光ビジネス会議などでのプロモーション活動。
- (3) 国内外の観光事業者を対象としたプロモーションツアー
- (4) 国内外のマスメディアを対象としたファミトリップ
- (5) モニターツアーの実施
- (6) 国内や中米地域の観光イベントへの参加

【関係者の役割分担】

アクター	業務内容
CDT インティプカ	全体の調整
市	ロジスティクス支援と必要な場所の提供
CORSATUR	技術支援
CAT ラウニオン	技術支援と全体調整
CONAMYPE	技術支援と人材育成
地域住民	ワークショップへの参加
JICA プロジェクトチーム	技術・資金協力
MEGATEC	技術支援

【プロジェクト実施工程】

活 動	2011		2012											
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
自然資源（動植物）インベントリー														
先行事例への視察研修の実施														
実施機関の設立と実施団体の登録														
実施機関の人材育成														
実施機関の登録														
ツアーのルートおよび商品のデザイン														
実施機関による交渉計画の策定														
マーケティング、販売計画の策定														
実施機関による販促活動														
マングローブツアーの実施														

【プロジェクトに要するコスト(実績)】

支出項目	第二年次(\$)	第三年次(\$)	合計(\$)	備考
カヤック、オール	17,000	-	17,000	カヤック 10 台、オール
メンテナンスキッド	700	200	900	
救命胴衣	2,200	-	2,200	大人用 22 着、子供用 6 着
ワークショップ	3,500	2,600	6,100	
WEB サイト作成	2,000	-	2,000	
ファムトリップ		500	500	
プロモーション費	-	600	600	パンフレット作成
合計	25,400	3,900	29,300	

【プロジェクト実施の留意事項】

青年組合（Asociación de Jóvenes para la Conservación de Intipucá）のメンバーである青年の組織化はなされているものの、未だ企業として活動を実施するための組織構造が確立されていないため、具体的に研修で得られたノウハウを実行に移すことができない。したがって、まずは経営・運営面での改善に向けた法的な組織構造を確立することが求められており、これが実行できるように留意する。

【モニタリングの留意事項】

CDT のキャパシティビルディングが重要であり、継続して彼らの活動をモニタリングしていくように留意する。まずは、同地域の観光産業のトレンドについて説得力のあるデータを収集すべく、CDT および MITUR/CORSATUR によるモニタリングを開始する。

## IV：観光環境教育

(対象市:パサキナ)

### 【パサキナにおける観光環境教育の背景】

パサキナには広大なマングローブ林という観光資源があるが、ここの汚染度は極めて高く、このままでは観光客を呼ぶことは難しい。環境汚染の根底には、環境に対する意識が低いことがある。

一方、観光業を市の産業として定着させたいという希望があるが、観光に対する住民の意識は未だ低く、観光業が定着するまでには長い時間を要する。

以上のような市の現状に鑑み、将来の地域を担うことになる若い人たちに環境や観光に対する教育を施し、その成果が子供たちを通じて、各家庭や地域住民に広がれば、コミュニティとして観光に対する意識が高まることが期待される。

### 【パイロットプロジェクトの目的および基本方針】

持続的な観光開発を可能とするためには、観光客をもてなす気持ちをコミュニティ全体で育てることが前提となる。地域全体でホスピタリティを高めていくことが最終的な目的となるが、このためには多くの時間を要するので、まずはモデル地域を設定して取り組み、継続的にこのモデルを拡大していくものとする。

### 【目標達成のための手法】

(対象生徒と協力校)

パサキナ市内の各校の位置や学年別の生徒数の把握が必要となる。

(講師)

MEGATEC の協力を得ること(学生を講師として活用する)を前提としている。

(プロジェクト実行委員会の結成)

核になる CDT のメンバーを決め、役割分担を決め、市との連携を取る。

(教育プログラム)

CORSATUR、MEGATEC、CDT、JICA プロジェクトチームなどが協力しながら作成していく。

(授業日)

授業実施日は MEGATEC 学生講師のスケジュール、及び各校校長の裁量により決定。

(コミュニティへの普及)

子供たちへの教育成果を家庭、コミュニティに拡大する。

(教育成果の検証)

教育の成果を定期的に検証し、プログラムの変更なども検討する。

(プロジェクトの記録)

パサキナでプロジェクトから外れたコミュニティや他市へプロジェクトを紹介できるように記録を残しておく。



(プロジェクトの総括)

本プロジェクトを総括し、他の市に対しても紹介できるようにする。

【関係者の役割分担】

アクター	役割分担
CDT	本プロジェクトを実施する
市	経験のないCDTと協働する
CORSATUR	本プロジェクトをCORSATURの実績とするために、常に全体の状況を把握する。
CAT ラウニオン	CDTを支援する。
コミュニティ	プロジェクトに協力する。
MEGATEC	プログラムの作成や教育の実施において協力する
JICA プロジェクトチーム	関係者と協調しながら、CDTを支援する。

【プロジェクトの実施スケジュール】

	2011	2012											
	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学校の授業期間													
MEGATECの授業期間													
1. 委員会の結成													
2. 資料の収集と分析													
3. 協力校と生徒の確定													
4. テキストの作成													
5. 授業の実施													
6. 総括													

【プロジェクトに要するコスト(実績)】

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
授業費	-	4,600	4,600	講師代
教科書	-	2,200	2,200	
遠足	-	11,000	11,000	3回
ビデオ	-	800	800	
ワークショップ	-	300	300	
シャツ	-	3,300	3,300	3校分生徒、先生
合計	-	22,200	22,200	

【プロジェクト実施上の留意点】

「エ」国においては、小中学校での観光に関する教育はほとんど行われておらず、参考となる経験が極めて少ない。また、修学旅行などの学校行事も殆ど行なわれていない。対象となるパサキナでは初めての経験となる。従って、常にプロジェクトの成果を検証しながら、プロジェクト内容や実施方法を改善する。

【モニタリングにおける留意点】

本件は、子供への教育を通じて、その成果を家庭、コミュニティへと拡大していくものであり、その伝達方法と共にその成果がしっかりとコミュニティに届いているかをモニタリングすることに留意する。

## V：フォンセカ湾島巡りツアー

(対象市：ラウニオン、コンチャグア、メアングーラデルゴルフオ、サンアレホ)

### 【パイロットプロジェクトの背景】

フォンセカ湾を象徴するような競争力の高い観光資源として、メアングーラデルゴルフオ島、サカティージョ島、コンチャグィータ島、マルティンベレス島、およびコンチャグア火山山頂からフォンセカ湾の島々を望む眺望などが挙げられる。

これらの島々を訪れた観光客や地域の開拓に取り組んでいるツアー業者側も、島々の景観やボートツアーなどに、高いポテンシャルがあると評価している。しかしながら、商品としての価値を付加し、地元の主要アクターを組織化し、観光客受け入れ体制を整えること、さらには観光客数の増加を狙ったプロモーション活動を実施することが、今後の課題として挙げられた。

### 【パイロットプロジェクトの目的と基本方針】

フォンセカ湾島巡りツアーは、地域を訪れる観光客の滞在期間を延ばし、さまざまな体験をし、支出行動の増加に結びつける一つのメカニズムとなる。また、観光客を受け入れる住民側も島々の主要資源の価値を再認識するとともに、地域への帰属意識や地元住民としての誇りを高めることができる。

### 【目標達成のための手法】

上記目標の達成に向けて、ツアーの開発と実施に携わるさまざまなアクターとミーティングやワークショップを実施する。

### 【関係者の役割分担】

アクター	業務内容
漁師とその家族	プロジェクトの実施から得られる知識に基づいてツアーを計画し、これを操業する。
地域 CDT	NGO や地域の協会と連携の下、プロジェクトの実施と、アクター、手法および操業手法の選択をする。
CDT	地元の自治体（ラウニオン、コンチャグア、メアングーラおよびサンアレホ）の管轄内においてプロジェクトの実施を支援する。
CORSATUR	CORSATUR の成功事例となるよう、プロジェクトの進捗状況の把握にあたる。情報および基本方針を提供する。
市	旅客の乗船・下船が容易にできるよう CDT を支援する。
CAT ラウニオン	プロジェクト実施にあたり CDT を支援する。
地域住民	プロジェクトへの協力。観光客に食事、散策、工芸品、その他の体験を提供する。
旅行会社(着地)	ツアーの予約業務を管理し、システムの推進とフィードバックにあたる。
旅行会社(発地)	観光商品としてフォンセカ湾島巡りツアーを販売する。
JICA プロジェクトチーム	各アクターと協力して CDT の支援にあたる。CDT および地域住民をプロジェクトに参加させるためのワークショップをアレンジし、資金援助を行う。

【プロジェクト実施工程】

活 動	2011		2012												2013
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
A. ツアーに携わるアクター、サイト、メカニズムの決定															
島々の開拓と既存ツアーの見直し															
アクターや観光資源の調査															
B. 島巡りツアーの開発															
島巡りツアーのルートや商品の開発															
ルートおよび商品の紹介															
パンフレットのデザインと製作															
C. ツアーのコーディネーションやプロモーションに関する CDT のキャパシティビルディング															
マーケティング&プロモーション計画															
島巡りツアーのプロモーション															
モニタリングとフィードバック															

【プロジェクトに要するコスト(実績)】

支出項目	第二年次 (US\$)	第三年次 (US\$)	合計 (US\$)	備考
ワークショップ	600	23,800	24,400	
ボート交通費	600	14,800	15,400	
パンフレット作成	3,400	3,600	7,000	デザイン・印刷費
ツアーガイドカード	-	400	400	船上の安全、生態系
救命胴衣	-	1,300	1,300	
ファムトリップ	-	4,800	4,800	旅行会社、メディア等
マニュアル作成費		6,000	6,000	デザイン・製本費
合計	4,600	54,700	59,300	

【プロジェクト実施の留意事項】

本プロジェクトは関係者が多岐にわたるため、さまざまなアクターとの調整が必要となる。特に、適正に予約業務がなされるよう、プロジェクトに参加する CDT が着地型観光を可能とする業者 (DMC) を少なくとも 1 社選定しておかなければならない。

【モニタリングの留意事項】

CDT の能力強化を図ることが重要であり、あらゆる観点からその活動を常にモニタリングしていく。また、プロジェクトモデルの普及やフォローアップを行うためのメカニズムを確立することに留意する。

### 活動 2-3：パイロットプロジェクト活動のモニタリング・評価を実施し、教訓をひき出す。

5 件のパイロットプロジェクトの実施スケジュールは以下の図に示すとおりである。

年 月	2011年			2012年												2013年											
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月						
業務期間	2年次業務						3年次業務																				
モニタリング&評価																中間レビュー					終了時評価	教訓・提言					
1. 観光地図 (WEB)	←→																										
地図作成	←→																										
配布	←→																										
モニタリング・評価	←→																										
2. 観光標識	←→																										
計画	←→																										
設置	←→																										
モニタリング・評価	←→																										
3. マングローブツアー	←→																										
計画	←→																										
運用	←→																										
モニタリング・評価	←→																										
4. 観光環境教育	←→																										
計画	←→																										
実施	←→																										
モニタリング・評価	←→																										
5. 島めぐりツアー	←→																										
計画	←→																										
運用	←→																										
モニタリング・評価	←→																										

図 3-5 モニタリングおよび評価のスケジュール

2012年6月には中間レビューが、2013年2月には終了時評価が行われた。

以下に、各パイロットプロジェクトについてその実施成果を概説する。

## I：観光地図（WEB）

### 【観光地図に掲載する地元観光資源の選定】

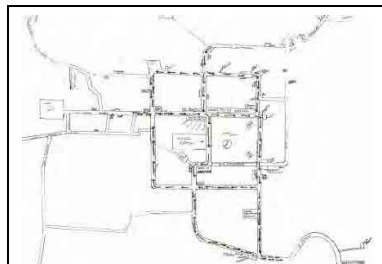
参加型アプローチによる観光地図作成ワークショップを行うため、CONAMYPE 等から紹介されたファシリテータ 3 名をトレーニングした。



CDT コンチャグアでのワークショップ

主要な観光地および観光客が立ち寄る場所を特定するために計 9 回のワークショップを実施した。ワークショップでは、3 つの市で 150 人以上が参加し、活発な意見交換が行われた。

ワークショップでは、参加者が市の観光資源と観光施設を再認識すること、今まで知らなかった観光資源・施設を知ったこと、観光の価値を高めるような建設的な意見交換ができたこと、観光客の目をひく観光資源や設備へのロゴの活用が重要であること、観光客の要求するような情報を提供すること等の意見が出された。市内の交通を予測した道路の通行規制情報も地図に記入された。



主要な道路に表現された情報

各 CDT は、それぞれの市にとって重要なイメージのアイデアを出し、それぞれ以下のよ



### 【CDT と関係者との観光地図情報システムについての議論】

印刷業者との会議では、CAT ラウニオン、CDT メンバー、それぞれの市役所、およびその他の地元の関係者から提供された情報に基づいて印刷する観光地図のデザインを作成した。



各地図のレイアウトでは市内地図を片側に寄せて、観光情報や必要なサービスと設備を地図に記入し、他のスペースには、重要な観光資源、道路、道路に面したサービス施設などの地域情報を記入することを関係者で合意した。地域のプロモーションのためにフォンセカ湾へのルート、ラウニオンの緊急連絡先と CAT ラウニオンのデータは全ての地図に記入することを決めた。



観光地図にある CDT メンバーに関する情報

地図の増刷を確実にするために観光地図の対価を求めることを決めた。配布場所では観光地図を無料で配り、利用者の関心を確保する。

【観光地図情報システム（アプリケーション）の開発と観光地図（観光情報）の印刷】

それぞれの市の観光資源・サービスをウェブ上でアクセスできるアプリケーションを作成した。これにより管理や更新が簡単にでき、観光情報をウェブサイトで見ることができ



ホームページ

<http://www.elgolfodefonseca.com/>

【観光地図の配布場所の選定】

観光地図の配布システムは CDT のメンバーと共に決め、主要な配布場所を特定し、基本的な観光案内ができるようになるためのワークショップを実施した。このワークショップを受けた人にはプロジェクトと CDT から証明書が授与され、自分たちの施設で観光地図の配布ができ、観光客に情報を提供できる。



## II: 観光標識整備

【観光標識で案内する観光資源・観光施設の選定】

現況調査に基づく協議の結果、各市において CORSATUR、CAT ラウニオンおよび CDT の間で観光標識整備の候補となる観光資源・観光施設が選定された。

市	サイト	標識の種類	計画数量	実施数量	備考
ラウニオン市	ラウニオン市棧橋	歓迎用標識 / 木製	1	1	
		観光情報板 / 木製	1	2	変更理由 B
	CAT ラウニオン (観光案内所)	案内標識 (小) / スチール製	12	0	変更理由 A
	サカティージョ島	歓迎用標識 / 木製	1	1	
コンチャグア市	コンチャグア火山	案内標識 (大) / スチール製	4	4	
		案内標識 (小) / スチール製	10	10	
		歓迎用標識 / 木製	1	1	
	コンチャグアビーチへの分岐点	案内標識 (大) / スチール製	1	1	
	中央公園 展望台	観光案内板 / 木製	1	1	変更理由 C
インティプカ市	エステロンビーチ (マングローブ林)	案内標識 (大) / スチール製	2	2	
		案内標識 (小) / スチール製	8	10	2 ヲ所増
	マングローブルート内	案内標識 / 木製	0	6	変更理由 D
	マングローブ案内図	観光情報板 / 木製	1	1	
合計			43	40	



ラウニオン市棧橋



コンチャグア火山の山頂から見たフォンセカ湾

【新たな観光標識のデザイン】





観光標識を矢印型にすることで、観光客の利便性を確保し、また、矢印の先に旅先への高揚感を生み出すことを考慮し、新たな観光標識のデザインを作成した。

文字に関しては、フォントや色などは CORSATUR のマニュアルを尊重しながらも、将来的に見込まれる外国人観光客も見据え、西語・英語併記による観光客にやさしい観光標識を作成した。

観光地図パイロットプロジェクトとの連携を兼ねて、観光地図を貼り付けた観光情報板がラウニオン市の棧橋 (2 ヲ所)、コンチャグア市の展望台 (1 ヲ所)、マングローブツアーの管理事務所 (1 ヲ所) 用に作成された。

以前 CORSATUR が設置したコンチャグア火山の歓迎用観光標識が適正な位置に設置されていなかったことから、その材料を再利用した。より観光客へのインパクトを出すために当初スチールの支柱であったものを木材に変更し、色も火山のイメージに合ったものに変更し作成した。

観光客を温かく迎えるというコンセプトの下、歓迎用観光標識および観光情報板については、木材を利用し作成した。また、使用材料に関しては、地元またはサンサルバドルで入手できるものとし、維持管理に配慮した。

	
<p>矢印型の観光標識 (エルエステロンビーチ、インティブカ市)</p>	<p>西語・英語併記の観光標識 (エルエステロンビーチ、インティブカ市)</p>
	
<p>木材を使用した観光標識 (コンチャグア火山)</p>	<p>木材を使用した観光標識 (良い旅をエルサルバドル - ラウニオン)</p>

**【CORSATUR と JICA プロジェクトチームによる観光標識の準備と CDT による設置】**

観光標識の設置許可に関しては、全ての許可が得られた。しかしながら、コンチャグア火山内の環境保護地域では、環境省の設置許可の取得に時間がかかったこと、また、ラウニオン市の栈橋に関しては、FISDL（施工側）からラウニオン市役所への引渡し大幅に遅れた。

**観光標識の設置箇所の変更**

- A. CAT ラウニオン（観光案内所）までの道順を案内する観光標識に関し、CORSATUR より事務所移転の可能性が判明したため、これを取りやめた。
- B. ラウニオン市栈橋に設置する観光情報板について、当初 1 ヲ所を計画していたが、2 ヲ所に増やした。
- C. コンチャグア市の中央公園に設置する予定であった観光情報板について、市役所から設置許可が下りなかったことから、これを上記 B. の栈橋用に転用することとした。
- D. マングローブツアールート内に観光ポイントの名称の標識（6 ヲ所）が必要であるという CDT からの要望があり、ラウニオン市で製作された歓迎用標識の木材の余り部材を利用し作成された。

**【地元コミュニティを巻き込んだ維持管理行動計画】**

1. 維持管理方法（盗難対策）
  - 1) ラウニオン市
    - 設置された観光標識はすべて栈橋内にあり、栈橋には 24 時間の警備態勢が整えられることから、警備員を通して随時状態を見廻る。
    - ラウニオン CDT 代表の住む家が栈橋の近くにあるため、彼が見回りを実施する。



2) コンチャグア市

- 設置されたコンチャグア火山までの案内標識 14 ヲ所のうち 2 ヲ所が切断された。CDT が汗水流し設置した観光標識が被害にあったことから、彼ら自らで以下の対策を検討した。

新聞などメディアを利用し、再犯を防ぐために広報する。

各市町村の地域住民組織 ADESCO (コミュニティ開発地域組織) を利用し各観光標識を見廻る。

コンチャグア火山には軍隊の基地があることから、彼らにも見廻りの協力を得る。

3) インティプカ市

- CDT やマングローブツアーに関係するスタッフなどが定期的に見廻りを実施する。

### III : マングローブツアー

#### 【CDT と青年会議】

インティプカでは、CDT 組織の法人化を促進し、同時にマングローブツアーの運用のための観光協同組合創設の可能性を求めた。

インティプカの環境保全のための青年会議 (AJPI) は 2011 年に 20 人で創設され、自然資源の保護とその案内者としてのトレーニングを受けていた。

#### 【マングローブに生息する動植物のインベントリーリストの作成】

マングローブツアーのために開発されるマングローブ地域のルートやガイドによる解説を整理するために、地域の自然資源を確認した。



### 【類似の成功事例に係るファムトリップの実施】

2011年11月24、25日にMITUR/CORSATUR、CAT ラウニオン、CDT、JICA プロジェクトチーム、CONAMYPE および NGO の Eco experiencias が参加して、ウスルタン県にあるメンデス島およびヒキリスコ湾へ先行事例の視察研修を実施した。

この経験によって、協会がプロジェクトの実施に強く関心を持ち、また操業中に避けなければならないような負の面を特定できるなど、多くのアイデアが生まれた。



研修旅行のためのロジスティックの準備



ヒキリスコ湾バラダ港の地域博物館視察



メンデス・アルベルゲ・ラ・トルツァガ島でのコミュニティとの意見交換会

### 【CDT とマングローブに関連する青年会議をベースとした協同組合の設立】

2つの組織は、先ずインティプカ CDT として法人化する手続きを開始し、これをインティプカ観光開発協会 (ADESTI) として登録する。AJPI を登録すると同時に、インティプカ観光協同組合を創設、組織化、法人化する手続きを始めた。

協同組合定款が INSAFOCOOP に提出され、協同組合は 2013 年 5 月 18 日に法人化されたが、インティプカ CDT の法人化は済んでいない。

### 【実施団体のためのマングローブツアーの計画と運営に係る研修】

赤十字による応急救助のワークショップなど、マングローブツアーの運営に関する全研修が終了した。さらに、協同組合スタッフや地元の協力者を対象に経営強化等、新たな研修テーマが拡大されている。

### 【マングローブツアーのルートや観光商品の開発】

4つの基本ルートが設定され、さらに 2013 年 3 月には 2つの新たなルート（ボート / 市内山間部のトレッキング / 宿泊を含むパックツアー等）の販売と宣伝活動が行われた。その他、学校や大学をターゲットにした教育ルート、ボート・ルート、バードウォッチング、観光・環境教育プログラムが計画された。

### 【ビジネスプランの作成】

実施団体は、年間投資・売上計画を含むビジネスプロフィールを策定し、ビジネスプランについては、協同組合の形成と合法化に関する研修の一環として策定した。

### 【マーケティング・営業計画の作成】

組合メンバーの管理運営研修のなかで、INSAFOCOOP、CONAMYPE、MITUR/CORSATUR、CDMYPE の指導を受けながら完成させた。ウェブサイト ([www/intipucatur.com/](http://www/intipucatur.com/)) と営業計画の更新はできている。

【マングローブツアーの営業活動】

観光フェア、商品プロモーションイベントへの参加、ニカラグア、ホンジュラスへの研修旅行、東部地域のチリラグア、エルクコ、エルエステロン、ラストゥナスにあるホテルへの営業訪問を行なった。ラスフローレス、ラ・トルトゥガ・ベルデホテルのサービスを獲得したグループがあり、国内の旅行会社にビジネス提案書を送付した。

【マングローブツアーの実施】

実施団体は、マングローブツアーを効率的に実施し、利用者の満足度調査でも高い満足度が得られた。

		
<p>ホームページの設立 www.intipucator.com</p>	<p>新しいマングローブツアー インフォメーションセンター</p>	<p>外国人観光客へのマングローブ ツアーの実施</p>
		
<p>エキスポ・パケーションへの参加。 観光大臣と撮影</p>	<p>マングローブツアーの プロモーション用チラシ</p>	<p>赤十字による応急救助の ワークショップ</p>
		
<p>協同組合の形成に向けた INSAFOCOOP とのミーティング 2012 年 11 月 14 日</p>	<p>Conchagua / Pasaquina CDT 向け環 境教育ツアー体験 2012 年 2 月 9 ~ 10 日</p>	<p>視察旅行用の新たな プロモーション資料</p>
		
<p>マングローブツアーのプロモーション (ホンジュラス・ニカラグア) 2013 年 1 月 / 2 月</p>	<p>ファミトリップツアー・グアテマラ人 クルーザー・オペレータ 2013 年 2 月 2 日</p>	<p>定款承認総会 2013 年 2 月 20 日</p>

## IV：観光環境教育

### 【活動計画に沿ってプログラムの実施】

#### 授業

授業は、作成されたプログラムに沿って行なわれた。その他、MEGATECの学生の発案で、観光に関する寸劇の宿題(Piedras Blancas/Santa Clara)が出されることになり、それらの実施や発表時間もプログラムに組み込まれた。



授業の様子



Piedras Blancas ツアー



寸劇



開始式典(INDA)



授業の様子(Santa Clara)



寸劇 (Santa Clara)

#### 遠足

遠足先はインティプカで、カヤック体験、ボートによるマングローブツアー及び環境の授業(インティプカ海辺の動植物)の3つのプログラムで構成された。



カヤック体験 (INDA)



マングローブツアー



環境授業(Santa Clara)

#### アクションプラン実施

##### <Piedras Blancas>

アクションプランの実施には、植林が選定された。(別途授業外に自主的に清掃活動が行なわれた。)



アクションプラン実施の様子

< INDA >

2012年11月16日のアクションプランの実施には、マングローブの清掃が選定された。その理由としては、マングローブはパサキナの重要な観光資源にもかかわらず、その保全・清掃がほとんど顧みられることなく、他のマングローブ林（インティブカヤヒキリスコ湾など）に比べて極めてゴミが多い。

< Snata Clara >

Santa Clara 校は国境の側近にあり、国境を流れる河川（比較的透明度は高い）を今後の観光資源としてとられ、その清掃、ならびにアクセス道路脇のゴミの処理をアクションプラン実施に取り入れた。



アクションプランの実施・マングローブ林清掃 (INDA)

川の清掃(Santa Clara)

その他

INDA の修了証書授与は折しも MITUR/CORSATUR のプロジェクト研修団の日程に合わせて、観光副大臣、JICA 所長、パサキナ市長の出席のもと 11 月 18 日（日）に実施された。

副大臣、JICA 所長両名の署名入り修了証書が生徒代表に手渡され、INDA からはダンスによる歓迎の意が披露された。併せて、式典には 1 校目の Piedras Blancas の生徒 100 名も招待され、校長の感謝の辞とともに、授業内で実施した生徒による寸劇も披露された。



修了証書の授与(INDA)

修了式典(INDA)

修了式典(Piedras Blancas)

## V：フォンセカ湾島巡りツアー

### 【島の調査と既存ツアーの見直し】

島の観光資源およびツアーを実施する運営母体を確認し、ツアー実施に必要な条件を整理した。



聞き取り調査の結果、島の知名度は低かったが、島へ行ってみたいという回答が多くあった。

大手旅行会社のいくつかのパンフレットには、フォンセカ湾の島巡りツアーは存在していないことがわかった。

### 【島巡りツアーに関わる人材と観光資源の調査】

CAT ラウニオン、CDT、旅行業者、漁師、MEGATEC の講師や学生と共に、本パイロットプロジェクトの実施支援の可能性について、打合せを実施した。



島巡りツアーで訪問可能な観光資源：

メアングーラデルゴルフォ島、サカティージョ島、コンチャグィータ島、マルティンペレス島（遊覧のみ）、プエブロビエホのビーチ、チキリン岬のビーチ、ブラジータスのビーチ

上記の観光資源を利用して、次のような観光カテゴリーを楽しむことが確認された。

- a. 自然と景色： 島の山頂からの眺望、イルカ・ホエールウォッチング（期間限定）、島内トレッキング。
- b. 文化： 貝殻や流木による民芸品、シーフード料理、地元漁師体験。
- c. アドベンチャー： 海水浴、シュノーケリング、トレッキング。

島巡りツアーの充実を図るため、観光ガイド研修をおこなった。

a. ラウニオンとメアングーラデルゴルフォ島の漁師と船頭総勢 14 名が観光ガイド研修に参加した。これは MITUR では初めてのケースであった。



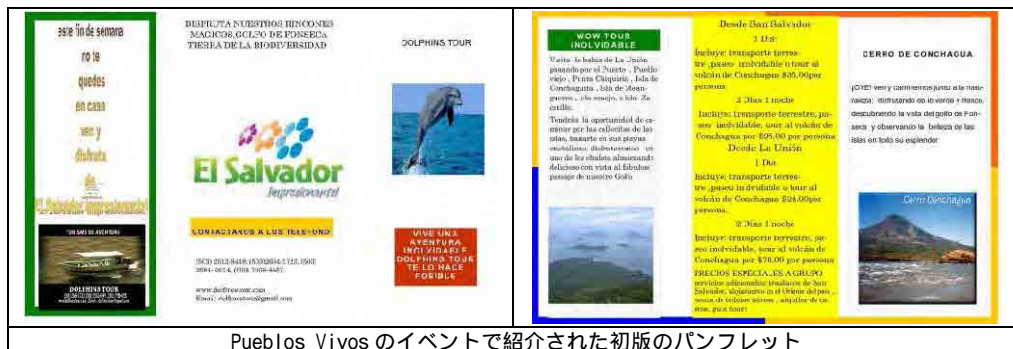
b. グルメ改善プログラムに約 60 名の飲食業関係者が参加した。

c. 島や海岸の関係者に裨益する民芸品改良プログラムの実施

地元のツアーオペレータのガイド能力の向上とサービスの標準化のためのマニュアルを準備し、シミュレーションを実施した。

【島巡りツアーのルートと商品の開発】

島巡りツアーのプロモーションに関するパンフレットを作成し、MITUR/ CORSATUR が主催する Pueblos Vivos のイベントやラウニオンで行われた CORSATUR 主催の旅行業者セミナーにて、このパンフレットが配布された。



MEGATEC 観光学科と連携し島巡りツアーのオプションとして夜釣りツアーの内容を検討した。



以下の商品のシミュレーションを実施した。

- コンチャグィータ島：トレッキング / キャンプ / 地元住民とのランチ。

- チキリンビーチ：アルコール・フリーのビーチ/ビーチサッカー等
- メアングーラデルゴルフ島：ビーチでの散策/海岸でのランチなど
- ピリガジョ島：バードウォッチングツアー
- ペリコ島・ペリキート島：バードウォッチングができるマングローブツアー
- サカティージョ島：グルメ/チューピング/スノーケリングなど
- プエブロビエホ：低予算または短時間の express Tour
- コンチャグア：火山・島・村を巡る海と陸のツアー/キャンプなど
- 湾内のクルージング

開発されたツアーは CORSATUR のスタッフ、市の職員、およびメディアに紹介された。

- 島々を巡るツアーを盤石化するために、漁師・船頭 32 名がツアーガイドとしての第 2 回目のトレーニングを受けた。最初に研修を受けた漁師がこの訓練を支援した。

		
<p>グルメツアーに関する ワークショップ (サカティージョ島、2月6-7日)</p>	<p>グループ・マネジメントに関する ワークショップ (コンチャグア火山、1月29日)</p>	<p>漁師ガイドの卒業式 (チキリンビーチ、2月20日)</p>

- グルメ・民芸品改善プログラムを実施し、約 100 名が参加した。プログラムには、調理、盛りつけ、地元の食材を使った郷土料理の試食会やワークショップも含まれた。

#### 【CDT と島の住民に対するルートおよび商品の紹介】

CORSATUR、市役所、ツアーオペレータ、メディア関係者に島巡りツアーを紹介し、開発したツアーを紹介した。

#### 【パンフレットのデザインと製作】

パッケージ中にはホテルコンフォートイン（ラウニオン市）のツアーデスク用に、島巡りツアーのプロモーションをベースにアクティビティのメニューを載せたパンフレットをデザインし、活用した。メニューは、CORSATUR マーケティング部、CAT、各 CDT、市役所、および島民と協力して作製した。

カリフォルニア州立大学海事学校演習船の学生をターゲットに島々を巡るツアーのパンフレットを作成し、宣伝・販売をおこなった。

案内人用のガイドブック、島巡りツアーマニュアルと、説明カードを印刷・配布した。これらは通訳、PR、新商品の取り入れに必要な資材である。





国際市場向け商品を掲載したパンフレット

「水のルート」の地図

説明カードの試作品

【パンフレットの紹介と島巡りツアーのファムトリップの実施】

合計 10 回のファムトリップを実施し、CORSATUR マーケティング部、商品開発、投資、中小企業・インフラ開発関係者、ツアーオペレータおよびマスメディアが参加した。このほか学校の教諭も招待し、島巡りツアーのプロモーションを行った。各地の地元住民 100 名以上がファムトリップの対応にあたった。

ファムトリップおよび FITUR フェア（マドリード）において、マーケティング部の協力で作製したパンフレットをツアーオペレータに紹介した。2013 年も CORSATUR やツアーオペレータが参加する国際フェアで紹介する予定である。



ファムトリップに向けた漁師のトレーニング CORSATUR・JICA 専門家と共に

ファムトリップの対応にあたった地域住民

マスメディアのファムトリップ コンチャグア

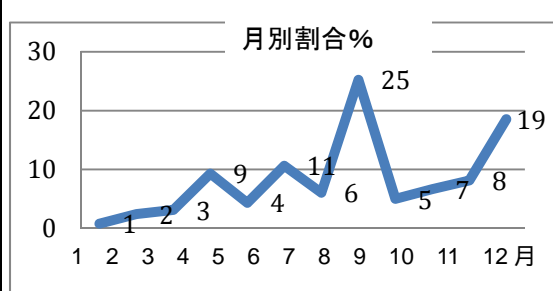
【CDT による島々を巡るツアーのモニタリングと関係事業者へのフィードバック】

地域 CDT はプロジェクト関係者と共同で需要分析および旅行客のモニタリングを開始した。参加したインフォマントの情報によれば、ツアーリストの数は前年比で指数関数的に伸びている。

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
%	1%	2%	3%	9%	4%	11%	6%	25%	5%	7%	8%	19%
Pax	31	97	126	377	175	432	245	1026	203	270	330	754

2012 年のビジターの 4 分の 1 は 8 月に集中した。

ハイシーズンは、4 月、7 月、8 月、12 月の 4 ヶ月で合計 65% を占める。残り 8 ヶ月は合わせて 35% である。前半よりも後半の方がビジターは多い。



### 成果 3：パイロットプロジェクト地域の CDT/ADT の能力が向上する

#### 活動 3-1：CDT/ADT やその関係者の研修ニーズを調査し、研修を実施する

##### (1) 研修のニーズ調査

研修内容は、以下のプロセスを経て決定した。

- 問題分析、目的分析ワークショップ : 研修のニーズの分析
- 再調査によるニーズの明確化 : 意見交換による研修のニーズの明確化
- 研修参加予定者を集めたミーティング : 参加予定者の興味、意見の汲み取り
- 研修の講師候補者とのミーティング : 研修内容の具体化

##### (2) 研修案の決定

ニーズ調査をもとに、以下のとおり各市における研修案が決定され実施された。

	起業 セミナー (観光開 連)	接客 サービス (レスト ラン)	接客 サービス (ホテル)	手工芸・ 民芸品 (貝)	手工芸・ 民芸品 (水葺)	手工芸・ 民芸品 (ヒカロ)	料理	リーダー 育成*	手工芸・ 民芸品 (竹)	手工芸・ 民芸品 (アルミ)	観光開発 基礎セミ ナー
ラウニオン									○		
コンチャグア											
インティプカ											
チリラグア											
エルカルメン											
バサキナ			○								
サンタロサデリマ											
ユクァイキン											
ポリバル											
サンアレホ											
サンホセ											
ヤヤンティケ											
メエンゲーラデル ゴルフ											

研修を実施する市（直接受益者）


研修に招待される市（間接受益者）

\* リーダー育成：研修生は CDT のリーダーもしくは 13 市の代表者


##### (3) 第二年次における研修の概要および成果

6 種 10 コースの研修が計 85 回実施され、計 9 市・計 216 名が参加した。


a. 起業セミナー（観光関連）

	No.1 ユクアイキン	No.2 インティプカ	No.3 パサキナ、サンタロサデリマ、 ポリバル、サンホセ
研修目的	地域の観光の発展に向けた研修参加者による起業のプランを作成する。		
研修内容	起業のコンセプト、経営、投資コストなどについて講義		
研修員	参加者計 28 名、うち 2 日間 参加したものの 12 名	参加者計 25 名、うち 2 日間 参加したものの 17 名	参加者計 30 名、うち 2 日間 参加したものの 5 名
成果	<p>参加者は起業のコンセプト、経営、投資コスト等、起業のための基礎的知識を習得した。</p> <p>また、2 日間出席した参加者は、ワークショップを通じて起業における目標達成のための活動計画（2012 年 6 月、12 月までの達成目標・活動）である起業のプランを作成することを達成した。</p>		


b. 接客サービス（レストラン）

	No.4 ラウニオン、コンチャグア、 サンタロサデリマ	No.5 サンタロサデリマ、 サンホセ	
研修目的	地域のサービス向上に向けた良い接客サービス（レストラン）の方法を学ぶ。		
研修内容	レストラン、飲食業経営者に顧客の分析、接客サービスの仕方について講義		
研修員	参加者計 27 名、うち 2 日間参加したものの 7 名	参加者計 18 名、うち 2 日間参加したものの 4 名	
成果	<p>参加者はレストラン顧客の分析、従業員のマナー等の知識、より良い接客方法の演習を通じた接客サービスの仕方を学んだ。また、2 日間出席した参加者は、従業員が顧客のために効率的に働いているか、清潔感があるか、接客を 2 分以内に行なっているか等、参加者による自己評価を研修期間中に行うことを達成した。</p>		


c. 接客サービス（ホテル）

	No.6 サンタロサデリマ	
研修目的	地域のサービス向上に向けた良い接客サービス（ホテル）の方法を学ぶ	
研修内容	ホテル経営者・従業員に顧客の分析、接客サービスの仕方について講義	
研修員	参加者計 9 名、うち 2 日間参加したものの 1 名	
CDT メンバー 参加者	研修員のうち 1 名、研修コーディネート・進捗管理 1 名	
成果	<p>参加者はホテル顧客の分析、従業員のマナー等の知識、より良い接客方法の演習を通じた接客サービスの仕方を学んだ。また、2 日間出席した参加者は、レストランにおける接客サービスの研修と同様、従業員が顧客のために効率的に働いているか、清潔感があるか、接客を 2 分以内に行なっているか等、参加者による自己評価を研修期間中に行うことを達成した。</p>	


d. 手工芸・民芸品（貝）

		No.7 ラウニオン・コンチャグア	No.8 インティプカ
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（貝）を活用した民芸品作りの技術を習得する。		
研修内容	当市のビーチにある貝殻を使用した民芸品作りに関する講義・実習、販売活動（バザー参加）		
研修員	参加者 21 名、うち全 17 回の研修修了生 10 名 （修了：全工程の 6 割以上参加者）	参加者 22 名うち、全 16 回の研修修了生 18 名 （修了：全工程の 6 割以上参加者）	
成果	参加者が地域資源である貝殻を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修では、研修員の感性・アイデアを大事にして、研修員自らのデザインによるサンダル作りが行われた。また、研修期間中に民芸品ブランドの立ち上げ、研修修了者による民芸民グループの形成、ラウニオン市におけるバザーへの参加・出展による販売活動を達成した。		

e. 手工芸・民芸品（水葦）

		No.9 エルカルメン	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（水葦）を活用した民芸品作りの技術を習得する。		
研修内容	水葦・民芸品の講義・研修、水葦のとり方・扱い方、販売活動（バザー参加）		
研修員	参加者 17 名うち、全 36 回の研修修了生 6 名（修了：全工程の 6 割以上参加者）		
成果	参加者が地域資源であるオロメガ湖の水葦を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修を通じて、計 21 種類の水葦を使用した民芸品の作り方を身につけた。研修期間中に、オロメガ湖をモチーフにしたロゴを作製した。また、facebook に登録し、研修で作った水葦民芸品のインターネットによる広報・宣伝を行ってきただけでなく、オロメガ湖におけるバザーにて当民芸品の販売を自ら行うことも達成した。		

f. 手工芸・民芸品（ヒカロ）

		No.10 コンチャグア・ラウニオン	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（ヒカロ：木の实）を活用した民芸品作りの技術を習得する。		
研修内容	ヒカロの実を活用した民芸品作りに関する講義・研修、販売活動（バザー参加）		
研修員	参加者 18 名うち、全 4 回の研修修了生 9 名（修了：全工程の 6 割以上参加者）		
成果	参加者が地域資源であるヒカロ（木の实）を活用した民芸品作りの技術を習得した。研修を通じて、計 4 種類のヒカロを使用した民芸品の作り方を身につけた。また、ラウニオン市におけるバザーへの参加・出展による販売活動を達成した		

(4) 第三年次における研修の概要および成果

7 種 9 コースの研修が計 58 回実施され、計 12 市・計 176 名が参加した。

a. 料理

No.1 ラウニオン	
研修目的	地域のサービス向上に向けて、魚介類を活用した料理の技能が向上する
研修内容	魚介類を使用した料理の講義・実習。学んだ料理：コクテル・デ・カマロン、ワイン風クルビーナ、カキフライ、シーフードパスタ、エピフライ、バエリア、ランゴスタ・レジェーノ、クレマ・デ・ランゴスタ、プイヤベース、計9種類
研修員	参加者 1グループ-5名、2グループ-6名、3グループ-8名、計19名
成果	<p>参加者は9種類の魚介類料理の作り方を学んだ。また、技能がより向上するよう、グループ1で</p> <p>参加した研修生の一人は、グループ2における講師のアシスタントを務め他の研修生に料理の作り方を教えた。これらにより、目指された成果「魚介類料理に関する料理の技能が向上する」は達成された。</p>



b. リーダー育成

No.2 13市リーダー対象	
研修目的	地域の観光発展に向けた CDT による観光パッケージプラン作成能力が向上する
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CDT 活動の実践例より事例の紹介および講義</li> <li>・ ラウニオンにおける CDT リーダーによる活動紹介</li> <li>・ 観光パッケージプラン作成における演習</li> </ul>
研修員	41名
成果	<p>ワークショップでは参加者は市ごとにグループに分かれ、各市の参加者による討議・協議を行い、各市による観光パッケージプランが作成された。ワークショップ後、各市によるプランの発表を行い、そのプランに対して、専門家、講師、他の参加者による、プランの妥当性の検証・問題点・改善点などのフィードバックが行われた。</p>



c. 手工芸・民芸品（貝）

No.3 チリラグア	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、地域資源（貝）を活用した民芸品作りの技術・技能を身につける。
研修内容	<p>当市のビーチにある貝殻を使用した民芸品作りに関する講義・実習</p> <p>研修で作製した民芸品：ネックレス5種類、ブレスレット5種類、イヤリング2種類、キーホルダー1種類、髪飾り1種類、計14種類</p>
研修員	22名、うち全9回の研修の修了生18名（修了：全工程の6割以上参加者）
成果	<p>研修を通じて、18名の参加者が全9回の工程を修了した。これにより参加者が、計14種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。研修生からは大変よく学べた、またこれからも民芸品作りを続けていきたいという声があがった。これらことから本研修の目指した「貝を使った民芸品作りの技術・技能を身につける」は達成された。</p>



d. 手工芸・民芸品（竹）

No.4 コンチャグア	
研修目的	地域の産業発展に向けて、竹を活用した民芸品作りの技術・技能を身につける
研修内容	<p>当市にある竹を活用した民芸品作りに関する講義・実習</p> <p>研修で作製した民芸品：ワインホルダー2種類（通常1、絵入り1）、ジョッキ2種類（通常1、絵入り1）、ティッシュ入れ2種類（通常1、絵入り1）、鉛筆立て3種類（通常1、絵入り2）、ロウソク立て3種類、キーホルダー2種類、フルーツ入れ、竹飛行機、ランプ、小物入れ、車輪つきワインホルダー、プレスレット、計20種類</p>
研修員	14名、うち全22回の研修の修了生12名（修了：全工程の6割以上参加者）
成果	<p>研修を通じて、12名の参加者が全22回の工程を修了した。これにより参加者が、計20種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。また講師は、参加者の多くは大変良く学べたと述べており、参加者からも大変良く学べたという声が多かった。</p>



e. 手工芸・民芸品（アルミ細工）

No.5 エルカルメン	
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、アルミを使った民芸品作りの技術・技能を身につける
研修内容	<p>民芸品適用に向けたアルミの扱い方・染色の仕方についての講義・実習</p> <p>研修で作製した民芸品：キーホルダー、花型マグネット、ハート型マグネット、クロス（十字架）ポトル、小物入れ4種類、計9種類</p>
研修員	14名、うち全9回の研修の修了生13名（修了：全工程の6割以上参加者）
成果	<p>研修を通じて、13名の参加者が全9回の工程を修了した。これにより参加者が、計9種類の当民芸品の作り方を身につけることができた。また講師は、参加者の多くは大変良く学べたと述べており、参加者からも大変良く学べたという声が多かった。</p>




f. 起業セミナー(観光開発)

	No.6 メアンゲーラデルゴolfo	No.7 サンアレホ
研修目的	地域の観光産業発展に向けて、研修参加者による起業プランの作成能力が向上する。	
研修内容	起業のコンセプト、経営、投資コスト、会計・資金管理などについて講義	
研修員	参加者計14名、うち2日間参加したもの9名	参加者計18名、うち2日間参加したもの9名
成果	<p>研修を通じて、メアンゲーラデルゴolfoおよびサンアレホ共に9名の参加者が2日間にわたったセミナーに参加し、起業のプランを作成した。作成されたプランでは、今後自分達が行っていく活動、必要とされる資金等を記載することができた。</p>	



g. 観光開発基礎セミナー

	No.8 チリラグア	No.9 ヤヤンティケ
研修目的	地域の観光の発展に向けて、研修参加者のイベント開催のプランの作成能力が向上する。	
研修内容	1. 観光基礎知識向上における講義（観光と経済、社会、環境の関連性等） 2. 観光に関するイベント開催における講義	
研修員	参加者計 17 名、うち 2 日間参加・4 名	参加者 17 名、うち 2 日間参加・17 名
成果	イベントの開催プランでは、イベントのプログラムの検討に加え、他団体とのコーディネーション、ロジスティックなどのグループごとの役割を決定することができた。また、研修ではイベント開催の中心的な役割となる CDT メンバーを必ず入れ、イベントの実現に向けてフォローがなされるように配慮した。 	

活動 3-2 : CDT/ADT において規約や定款の作成もしくは改善を行う

パイロットプロジェクト対象 13 市の CDT は、プロジェクト開始時点では、いずれの CDT も規約を有していなかった。法人化すれば内部規約を所有する必要があるが、法人化した 5 つの CDT はこれを作成していなかった。規約を必要とするような活動はしてこなかった、という背景がある。

その後 2012 年にインティブカと地域 CDT において規約が作成された。そこで 2013 年 1 月に各 CDT に適応可能な規約のモデルを作成し、CORSATUR と各 CDT に配布し、これを参考にして夫々の CDT に相応しい規約を作成するように依頼した。

以下に支援結果を記載する。

CDT	規約作成状況	主な事項
ラウニオン	規約が作成され、総会での承認待ち	会費は 3 ドル/月
コンチャグア	規約が作成され、総会での承認待ち	会費は 5 ドル/月、規約は CDT 独自で作成。
バサキナ	規約が作成された。	会費なし
エルカルメン	規約が作成された。	会費は 2 ドル/月。事業内容に環境保護に関する事項を追加。
インティブカ	規約が作成された。	規約は CDT 独自で作成。会費なし。協同組合に 5 ドル/月納めている。
メアングーラデルゴルフ	規約が作成された。	会費は 5 ドル/年
サンタロサデリマ	規約が作成された。	会費は 10 ドル/年
ヤヤンティケ	規約が作成された。	会費は 5 ドル/月

最終的に 8 つの CDT が規約/定款を作成することができた。作成できなかった主な市の理由は以下のとおりである。

- ボリバル：CDT が崩壊状態にある。
- サンホセ：CDT の再構築中で、規約の検討はその後になる
- ユクアイキン：CDT の再構築中で、規約の検討はその後になる

### 活動 3-3： 大学や NGO、観光業者、行政機関などの関連機関と CDT/ADT のネットワークを強化する

パイロットプロジェクトや研修、および国内研修などの場を通じて CDT を支援する関連機関との接点は多くあった。以下にその主要なものを上げる。

#### CONAMYPE

- ▶ パイロットプロジェクト「マングローブツアー」では CDT インティプカの法人化手続きで大きな支援を受け、「観光地図（WEB）」ではワークショップのファシリテータ確保のために支援を受けた。

#### MEGATEC ラウニオン校

- ▶ パイロットプロジェクト「観光環境教育」では、MEGATEC からはテキスト作成に関する資料提供および講師派遣の支援を受けた。また、観光に関するコンセプトの作成においてもいくつかの CDT は MEGATEC の学生の支援を受けた。

#### INSAFOCOOP(エルサルバドル協同組合促進機関)

- ▶ インティプカとヤヤンティケが協同組合の結成に関して INSAFOCOOP の支援を受けた。インティプカでは引き続き、組合の管理・運用マニュアルの作成のための支援も受けた。

#### CDMYPE(中小企業開発センター)

- ▶ インティプカは、ビジネスプラン作りにおいて CDMYPE の支援を受けた。

### 活動 3-4： CDT/ADT 相互の交流（第三国研修を含む）を強化する

CDT 相互の交流として行われた主な活動には以下のものがある。

#### CDT 全国大会(MITUR/CORSATUR 主催)

- ▶ 1 年に 2 回 MITUR/CORSATUR が全国の CDT を招集し、能力強化を図るための研修を実施している。各 CDT から 2, 3 名が参加し、全体としては 300 名を超える規模となる。参加者間の交流が活発に行われ、CDT の活動の事例などの発表もあり、CDT の活動に必要な知見を得る貴重な場となっている。

#### 西部地域への国内研修

##### 背景と目的

- ▶ 「エ」国内、特に観光開発において先行する西部地域の成功事例を学ぶ。
- ▶ 2012 年 2 月 17 日・18 日の二日間に渡り、総勢 45 名にて国内研修を実施した。

##### 訪問場所

スチトト、コアテペケ湖（エルコンゴ）、アパネカ、サンロレンソ、ファユア



## 研修の結果

【スチトト】: 「エ」国内唯一の“歴史文化都市”として15年前に国から指定を受けた。その維持と発展に様々な工夫と活動が行われ、「エ」国内の観光都市としての名声を得てきた。

一方、CDTの活動の歴史も古く、CATスチトト内のCDT間に多少の格差はあるものの週一回の定期的な会合を開き、広く官民の連携を保つCDTもある。



CDTとスチトトのワークショップ

【エルコンゴ】: エルコンゴはCONAMYPEの支援のもとに一村一品運動として観光を取り上げた「エ」国では初めての自治体であり、これまで一定の成果を挙げてきた。その特徴的な活動は以下に集約される。

- ・青少年の観光への重点的取り組み
- ・活動のイメージキャラクター（TABUTO）の製作



コアテベケ湖視察

【ファアユア】: 土日・祝日に歩行者天国にて各種食べ物の屋台などによる縁日（祭り）を実施している。近郊各地や遠くグアテマラ・ホンジュラスからも観光客が訪れている。長年に渡る経験と実績・課題が紹介され、東部地域においても同様な企画を実施する際の模範例として参照するところがあった。



地元料理の屋台の視察

## パイロットプロジェクトの立ち上げ式

2011年9月22日、MEGATECラウニオン校にて観光大臣、CORSATUR長官、JICA代表者、カウンターパート、各CDT参加の下、CORSATURにて最終的に確定されたパイロットプロジェクト5件の内容説明などの開始式典が盛大に開催された。



プレゼン資料の手渡し

## 日本大使館および観光省のプロジェクト視察時のCDT会合

日本大使館（参事館）MITUR（副大臣）JICA事務所（所長）によるプロジェクト視察が2012年11月17,18日の2日間行われ、17日にはCDTのメンバーがホテルコンフォートイン（ラウニオン市）の会議室に参集した。CDTの各担当者が5つのパイロットプロジェクトと研修についてプレゼンテーションし、その後質疑応答が行われ、CDT相互の交流が強化された。



### 13市の観光開発に関するコンセプトの発表会

2013年2月21日、サンミゲル、ウスルタン、およびモラサン県のCDTメンバーを招待し、ホテルコンフォートインにおいて「観光開発に関するコンセプト」の発表会が開かれた。13市全てのCDTが発表し、東部地域4県におけるCDT相互の交流が強化された。



### 活動3-5： 関係するCDT/ADTごとに観光開発に関するコンセプトを作成する

観光開発に関するコンセプトは、市の将来における観光開発の方向性を定めるものであり、この策定にあたっては、CDTおよび市としての観光開発のビジョンを定め、それに向けての活動計画を作成し、関係者間の共通認識を形成する。また、対外的に自分達CDTを知ってもらうと同時に市の観光についてプロモーションできる材料となる。このような作業を通じて、CDTおよび市の目標が定まると同時に、観光開発能力が高まり、一緒になって地域の観光資源の再認識ができる。

この作業が予定通り進まないCDTも多くあったことから、2013年2月21日に各市のコンセプトの発表会を実施するスケジュールを定め、この日をターゲットとして作成することとした。この方針のもと2013年1月初めにMEGATECに支援を求め、観光学科の学生を動員して、進捗の遅いCDTのコンセプトづくりを支援した。

2013年2月21日には、終了時評価ミッション、ウスルタン、サンミゲル、およびモラサン県のCDT参加のもとに13市全てのCDTがコンセプトを発表した。

### 活動3-6： CDT/ADTのドナー機関やNGOに対する資金協力を含む支援依頼にかかるプロポーザル作成能力を強化する

観光開発に関するコンセプトの策定のプロセスにおいて、代表的な観光開発プロジェクトを抽出し、プロポーザルを作成することとした。

表 3-1 観光開発コンセプトにおける13市の優先プロジェクトと支援実績

市	優先プロジェクト		支援実績
ボリバル	市の観光を促進する活動の組織化	×	
チリラグア	中央公園の再建	×	
コンチャグア	タマリンド海岸開発		CORSATUR、MOPと連携し作成
エルカルメン	駅舎における工芸品観光列車とイメージの改善プロジェクト		
インティブカ	マングローブとカヤックツアーのシステムに基づいたインティブカ市観光開発のためのメカニズム構築		
ラウニオン	旧駅舎 ・設備として博物館、食堂、民芸品売り場および観光者のための案内所を設置する。		
メアングーラデルゴルフ	船着場の生きた博物館への転換		
バサキナ	観光環境教育 ・バサキナの全ての学校に普及する		道路整備のプロポーザルを作成
サンアレホ	公園建設	×	
サンホセ	ギジェルモコルテス大尉を称えるエコ公園の創設	×	
サンタロサデリマ	シナイ総合公園プロジェクト		
ヤヤンティケ	観光情報のためのキオスク建設	×	
ユクァイキン	スパサルトオスクロの改善計画		

プロポーザル作成にあたっては、サンプルを提示し、その作成をフォローする、という方法で実施した。

優先プロジェクトと実際に作成したプロポーザルの内容が異なった市にはパサキナがある。プロポーザルのタイトルは、サンセバスティアンまでの道路整備となった。

13市のうち実際にプロポーザルを作成することができたのは8市であり、5市は作成することができなかった。できなかった主な理由としては、CDT が崩壊状態にある（ポリバル）、CDT の再構築中で、プロポーザルの作成などはその後になる（サンホセ）などの理由が上がっている。

#### 成果 4：MITUR 及び CORSATUR におけるパイロットプロジェクト地域の CDT/ADT 支援能力が向上する（MITUR/CORSATUR の能力向上）

##### 活動 4-1：MITUR 及び CORSATUR の CDT/ADT とのコミュニケーション能力を強化する

パイロットプロジェクト・研修の実施を通じて、また「活動 3-4」の諸活動を通じて、MITUR/CORSATUR の CDT / ADT とのコミュニケーション能力は強化された。

##### 活動 4-2：MITUR 及び CORSATUR による、他ドナーや NGO からの資金提供を受けるために必要な CDT/ADT のプロポーザル作成及びプロジェクトの企画・運営等の能力強化にかかる支援を実施する。（本邦研修を含む）

###### パンフレットの作成：

###### (1) フONSECA 湾観光パンフレットの作成（第一年次）

グアテマラへの第 3 国研修を計画したときに、フONSECA 湾地域の観光宣伝をするのに必要な観光パンフレットがなかったため、プロジェクトチームとカウンターパートチームが CORSATUR のマーケティング部とかけあって、研修旅行の出発に間に合うようにパンフレットをデザイン、印刷した。



###### (2) 米国カリフォルニア州大学の海事学校のラウニオン訪問（第二年次）

2012年6月中旬、米国カリフォルニア州大学の海事学校の約350名の学生がラウニオン市を訪問し、4日間滞在した。この大勢のお客人を地域で受け入れ、観光ツアー商品（17種類）を販売するためのパンフレットを作製した。CORSATUR、地域 CDT が中心となり、ラウニ



オン市や各 CDT と連携しながら対応した。

- (3) 2012年9月30日から10月7日にクラサオ(カリブ海の島)にて行われた FCCA (Florida-Caribbean Cruise Association) に参加するため、CORSATUR、地域 CDT と協働し、ラウニオン港を中心としたフォンセカ湾の観光に関するパンフレットを作成した。

また、CORSATUR や地域 CDT が参加したスペインでの国際観光フェアや第三国研修(ニカラグア、ホンジュラス)にも上記のパンフレットを配布した他、島めぐりツアーのパンフレットも利用した。



#### 活動 4-3： MITUR 及び CORSATUR は、パイロットプロジェクト地域において法人格を持たない CDT の法人化を行う

##### CDT の設立への動き

フォンセカ湾岸地域 13 市の中で最後まで CDT の無かったメアングーラデルゴルフォ、チリラグアおよびヤヤンティケの 3 市に CDT が設立し(2012 年)、13 市全てに CDT が設立されたことになった。

##### CDT の法人化への動き

少なくとも 3 つの CDT を法人化することを目標としたが、具体的な法人化の手続きに入ったのは 2 市(インティプカとヤヤンティケ)であり、2013 年 6 月時点でこれらの CDT は法人化されていない。但し、法人化するかどうかは CDT の意志であり、CORSATUR としては特別な支援はしない、という方針を確認した。

サンアレホ、ユクァイキン、およびサンホセが法人化に興味を示している。

#### 成果 5： CDT/ADT の活動モデルが開発され、東部地域に普及される

##### 活動 5-1： 成果 1 から 4 を通じて、CDT/ADT 能力強化のための提言をまとめ、モデルを構築する

本活動モデルは、実施されたプロジェクトの活動内容を分析、整理し、その成果を、観光資源を持つ東部地域で活用できるようにモデル化したものであり、地域の観光開発を推進する上で、MITUR/CORSATUR が CDT や市と共に活用できるものを意図した。

地域の観光開発の振興には、MITUR/CORSATUR より支援を受けて CDT を設立し、CDT が地域の中心となり活動を推進していくことになる。活動を通じて CDT の組織強化を図ると同時に、地域の観光開発コンセプトの策定、観光開発プロジェクトの実施、また、開発された観光商品のプロモーション/マーケティング活動を実施し、これらの活動で得ら

れた知見を当活動モデルの該当項目にフィードバックすることが一連の枠組みとしている。

この活動モデルは初版として整えられたものであり、今後本活動モデルを活用しながら、新たな知見を加えて、改定されていくことが望ましい。

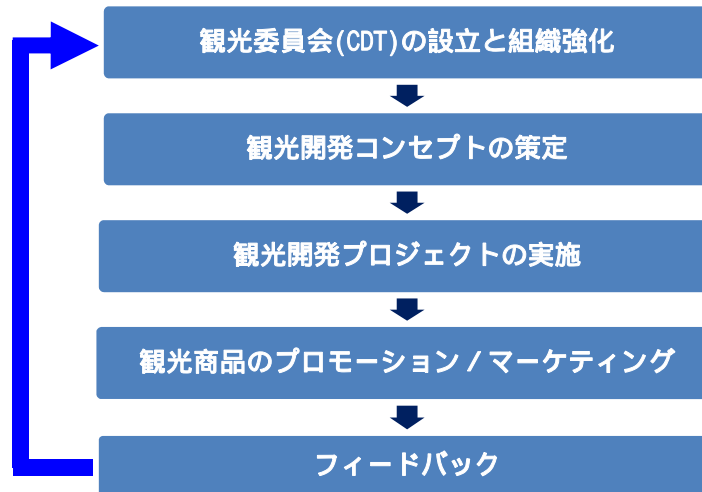


図3-6 活動モデルの枠組み

## 活動 5-2： 東部地域に対してモデル普及のためのセミナーを開催する

### 普及対象地域

モデル普及の対象は東部地域 4 県（サンミゲル、ウスルタン、モラサン、ラウニオン）である。

### 普及テーマ、材料および参加者

各県の CDT の設立率は特徴的である。サンミゲル県には 2 つの CDT しかなく、CDT の活動はこれからである。ウスルタン県では比較的多くの CDT が設立されているが、地域 CDT はない。これらの 2 県に対してラウニオン県とモラサン県には CAT 事務所があり、地域 CDT もあり、両県は似ている。

これらの特徴を踏まえ、県別普及テーマと普及のための材料を準備した。また、参加者については、CDT の拡大には官民連携が必要であることから、全ての市と CDT の関係者を予定した。

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| サンミゲル県 | ： CDT の役割と官民連携の必要性             |
| ウスルタン県 | ： CDT と地域 CDT の連携              |
| モラサン県  | ： 観光開発プロジェクト                   |
| ラウニオン県 | ： フォンセカ湾 13 市のさらなる観光開発能力強化に向けて |

### 普及体制

東部地域には 2 つの CAT 事務所があり、CAT ラウニオンがラウニオン県とウスルタン県を、CAT ルータデパスがモラサン県とサンミゲル県をそれぞれ所管している。これら

の CAT 事務所が各県下の各 CDT と向き合いながら普及活動を実施することになる。

プロジェクトの成果を共有しているのは CORSATUR、CAT ラウニオンおよびフォンセカ湾 13 市の CDT と地域 CDT である。これらプロジェクトの成果を共有する組織が共同して普及活動を支援し、活動モデルを東部の他の地域にも拡大して活用していくことが望まれる。

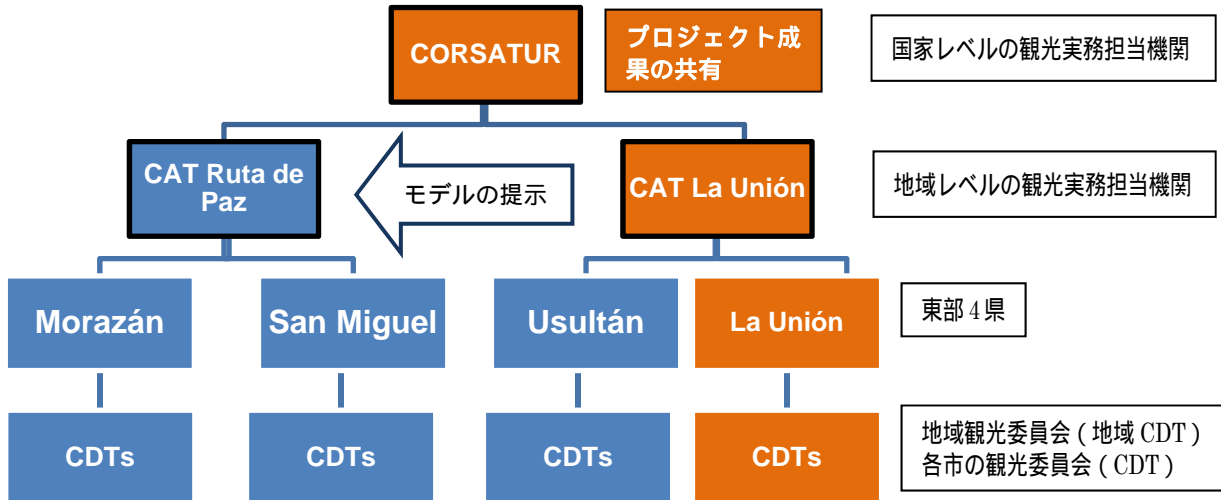


図3-7 東部地域の観光開発の推進体制

従って、セミナーも将来の普及体制に沿って、CAT ラウニオンと CAT ルータデパスが中心となって実施する方針を立てた。

### 普及セミナーの実績

以下に 4 県にて実施した普及セミナーの実績を記載する。

#### 1) ウスルタン県

日時： 2013 年 5 月 30 日  
 場所： ホテルセビージャ（ウスルタン市）  
 参加者数： 計 78 名（10 市の CDT、市長および市役所職員、CORSATUR/CAT、JICA）



#### 2) モラサン県

日時： 2013 年 6 月 3 日  
 場所： ホテルペルキンレンカ（ペルキン市）  
 参加者数： 計 96 名（14 市の CDT、市長および市役所職員、CORSATUR/CAT、JICA）



### 3) サンミゲル県

日時： 2013年6月5日  
 場所： ホテルトロピコイン（サンミゲル市）  
 参加者数： 計80名（3市のCDT、市長および市役所職員、CONAMYPE、FUNDE、UNIVO、ヘラルドバリオス大学他、CORSAUR/CAT、JICA）



### 4) ラウニオン県

日時： 2013年6月7日  
 場所： ホテルコンフォートイン（ラウニオン市）  
 参加者数： 計106名（13市のCDT、地域CDT、市役所職員、CONAMYPE/CDMYPE、ADEL La Unión、MEGATEC ラウニオン校、SICA、ラウニオン県庁関係者、ニカラグア・ホンジュラスの観光関係者、CORSAUR/CAT、JICA）



## 第4章 投入実績

### 4.1 専門家派遣実績

本プロジェクトは以下の6名の専門家(総括/コミュニティ開発/組織間調整/観光開発/観光プロモーション/人材育成)によって実施された。また、投入実績は92.07人月(第一年次24.05人月、第二年次31.14人月、第三年次36.88人月)であった。

### 4.2 研修員受入実績

本邦研修が第二年次と第三年次に、第3国研修が第一年次と第三年次にそれぞれ実施された。

#### 4.2.1 本邦研修

##### (1) 第1次本邦研修(2011年9月27日 - 10月11日)

研修では、プロジェクト対象地域の観光開発の方向性と関連のある日本国内の観光分野の成功事例、模範事例、先進事例を視察し、同時に関係者から背景や経緯などの説明を受け、質疑応答を行った。また、JATA 旅博では「エ」国観光についてのプレゼンテーションを行い、研修の総括として、研修の成果およびアクションプランの発表を行った。

#### 基本方針と研修先

- ( ) 地方観光協会や地域の NGO との官民連携とその運営状況の学習。  
研修先：川越市役所産業観光部観光課 / NGO 川越蔵の会 / 由布院温泉観光協会 / 藤沢市観光協会
- ( ) 大分県における観光振興の成功事例についての研修。  
研修先：大分一村一品国際交流推進協会 / 一般社団法人ジャパンオンパク
- ( ) 日本の観光行政・観光振興の学習。  
研修先：JNTO (国際観光振興機構) / 観光庁国際観光政策課 / 社団法人日本観光振興協会
- ( ) 観光開発の参考事例の見学。  
研修先：江の島 / 土肥 / 京都
- ( ) JATA 旅博への参加  
研修員は「エ」国観光について資料の配布やプレゼンテーションを行う。

#### 研修員

Sandra Natzumi Fuentes Sanchez: COSATUR / CAT ラウニオン職員  
当初2名が予定されていたが、内1名が体調不良により研修を取り止めた。

#### 研修の成果

研修員は本邦研修で学んだことを研修最終日にプレゼンテーションの形にまとめ発表を行い、帰国後も CORSATUR の中で研修成果の発表を行った。



		
「エ」国観光についてのプレゼンテーション (2011年9月29日)	大分一村一品国際交流推進協会 (2011年10月4日)	修了式 (2011年10月11日)

(2) 第2次本邦研修(2012年11月9日～11月25日)

研修員：

氏名	所属	役職
Ms. Eva Patricia Mejía Flores	観光公団 (CORSATUR)	専門家 / CDT 担当
Ms. Marta Lalyvette Calderón Toledo	観光公団 (CORSATUR)	専門家 / 観光施設・インフラ担当
Mr. Luis Alberto Díaz Vella	ラウニオン市 CDT	会長
Ms. Elsy Maritza Guevara Zoniga	インティブカ市 CDT	会長

研修概要：

研修項目	具体的内容・時間	研修先
地方観光振興機関の官民連携	地方観光振興機関訪問 (2日間)	国頭ツーリズム協会 (集団研修) 東村観光振興協議会 (集団研修)
地方自治体の観光行政・観光振興	県庁・村役場訪問 (2日間)	沖縄県庁文化観光スポーツ部 渡嘉敷村役場商工観光課
日本の観光行政・観光振興	官民観光機関への訪問 (1日間)	観光庁観光地域振興課 / (社) 日本観光振興協会
エコツーリズムの概要との参考事例	観光施設・観光地訪問 (5日間)	環境省那覇自然環境事務所 / 今帰仁城 (集団研修) / やんばるの学びの森 (集団研修) / 東村慶佐次 (集団研修) / カヌチャリゾートホテル (集団研修)
観光開発・観光振興の参考事例	観光施設・観光地訪問 (5日間)	南城市 (集団研修) / 沖縄美ら海水族館 (集団研修) / 泊ふ頭株式会社 / 浅草文化観光センター / 水上バス乗船 / 道の駅八王子滝山 / 東京都高尾山ビジターセンター
意見交換・討議	意見交換会の実施 / アクションプラン作成 (3日間)	中南米地域と日本・沖縄のエコツーリズムに関する意見交換 (集団研修) / 中間レビュー / 報告会準備会 / 報告会

		
沖縄県文化観光スポーツ部 / 講義 11/13(沖縄県県庁)	やんばるの森トレッキング / 実習 11/15 (やんばるの森)	地域食材によるグルメ開発 / 見学 11/17 (カヌチャリゾートホテル)

		
<p>渡嘉敷村商工観光課 / 講義 11/19 (渡嘉敷村博物館)</p>	<p>(社)日本観光振興協会 / 講義 11/21 ((社)日本観光振興協会)</p>	<p>報告会 / 発表・討議 11/22 (JICA 本部)</p>

## 4.2.2 第三国研修

### (1) 第1次第三国研修(グアテマラ) (2011年2月12日から2月20日までの9日間)

グアテマラへの第三国研修を実施し、広範な成果が得られた。「グアテマラ国観光自治管理委員会強化プロジェクト」はグアテマラの観光関係者の組織である観光自治管理委員会(CAT)を対象とした技術協力プロジェクトで、本プロジェクトとの類似性が高く、今後の活動の参考となるという観点から、グアテマラでの JICA プロジェクトの対象地域を訪れる研修旅行を実施した。参加者は総勢 40 名であった。

#### 研修旅行の目的

研修旅行の目的は以下の 4 項目に集約される。

- ・ 観光開発の先進事例の視察
- ・ グアテマラ観光市場の調査学習
- ・ フォンセカ湾岸地域のグアテマラにおける宣伝、およびその OJT
- ・ 「グアテマラ観光自治管理委員会強化プロジェクト」の成果を実感し、JICA 観光技プロのコンセプトを理解する。

上記の目的を達成するため、グアテマラのふたつの世界遺産アンティグア・グアテマラとティカル遺跡を結ぶケツァルの道 (Ruta de Quetzales)沿いの観光地、観光施設を視察し、グアテマラのホテル、レストラン、観光委員会のリーダー等観光関係者と意見と情報の交換を行ない、旅行会社が集積するアンティグアにおいて、またグアテマラ北部地域の観光委員会(CAT)の大会である COMPETUR に参加して、エルサルバドルとフォンセカ湾岸地域の観光宣伝を行った。



## (2) 第2次第三国研修(ニカラグア/ホンジュラス)

2012年1月27日～2月1日の6日間で、ホンジュラス・ニカラグアへの第三国研修をおこない、38名の参加があった。

研修目的は、以下の通りである。

- (1) ホンジュラス及びニカラグアにてワークショップを開催し、民芸品などの展示即売や、新規観光商品(マングローブクルーズや島めぐり)の紹介・案内などにより、エルサルバドルへの訪問を促進する。
- (2) ホンジュラス、ニカラグア観光客の動向・形態・嗜好などを理解し、今後のプロモーション施策に資する。
- (3) ホンジュラス、ニカラグア観光省を含む、各市観光関係者との密なる関係を構築し、今後、双方向の交流に資する。
- (4) エルサルバドルのCDTに相応する、ニカラグアのGabinete de Turismo (Tourism Board)、ホンジュラスのCamara Nacional de Turismo (観光商工会議所)との意見交換により、国や市と観光関連者との連携や課題などを学ぶ。

		
グラナダ観光業者と研修参加者による名刺交換が行われる (グラナダ、1/29)	グラナダの観光業者より観光客受け入れ体制について説明をうける (グラナダ、1/29)	研修評価会の実施。成果発表、及び意見交換 (テグシガルパ、1/31)

## 第5章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓

### (1) セミナーの開催地域とプロジェクト対象地域

#### プロジェクト対象地域

パイロットプロジェクトを実施する13市とプロジェクト対象地域の関係が不明瞭であったが、以下の通り定義した。

**プロジェクト対象地域** : 東部地域

**パイロットプロジェクト対象地域** : CAT ラウニオンが現在管轄している13市

#### 観光委員会と観光協会の明確化

観光委員会(CDT)と観光協会(ADT)の用語の使用に混乱があったことから、以下の通り定義した。

「観光委員会（CDT）」とは MITUR/CORSATUR によって承認された、地域の観光活動のために組織化された地域の代表者グループ。

「観光協会（ADT）」とは、上記「観光委員会（CDT）」が法人化された組織のことを示す。

## (2) プロジェクトの実施体制

本プロジェクトの実施主体は C/P 機関である CORSATUR であるが、本部のスタッフに余裕がなく、また本部とプロジェクトサイトが離れていて簡単に移動できないことから、CORSATUR の体制としては CAT ラウニオンの 2 名のスタッフを中心となった。プロジェクトの活動が盛んな時には 2 名では対応が難しく、結果として JICA プロジェクトチーム主体となるが多かった。

## (3) C/P の拡大

実施体制には問題があるものの、パイロットプロジェクトのスタートに合わせて CORSATUR 内の各部署から C/P が招集され、これによって CORSATUR としての総合力が高まり、また C/P を通じて本プロジェクトの概要が CORSATUR 内に広めることができた。

## (4) CDT/ADT の関心を高める

プロジェクトの活動に含まれていることではあるが、意識的に 13 市の CDT/ADT が一堂に会する場を設定した。このような場を利用して、MITUR/CORSATUR と CDT/ADT の交流を深める工夫をした。

## (5) CDT / ADT の能力

13 市の観光委員会が設置されてからの歴史は浅く、プロジェクト開始前に実施されていた活動は少なく、本格的な活動は本プロジェクトによって行われたものである。様々な活動の場があり、それぞれの活動は活発であった。しかし、自発的な行動はあまり見られなかった。

## (6) 地方選挙の影響

2012 年 3 月に実施された地方選挙の結果、市長の交代により、市役所のプロジェクトへの対応が変わり、CDT のメンバー変更を余儀なくされ、プロジェクトの進行も危うい状況になる CDT も出現した。

CORSATUR では、これらの対応として問題となっている市をプロジェクトの責任者が直接訪問し、プロジェクトの内容を説明して、この理解を求め、プロジェクトのスムーズな進行に繋げた。

## 第6章 PDM の変遷

最初の PDM は JICA エルサルバドル事務所所長と観光大臣との間で 2010 年 3 月 23 日に締結された。本プロジェクトのプロジェクトデザインマトリックス (PDM) は、プロジェクト実施期間中に以下のような変更が行われた。

変更時期	改定内容	その理由
第 2 年次のパイロットプロジェクト開始時 (CORSATUR との協議)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 活動の実態や対象地域の実情と整合させる</li> <li>2. 指標の設定</li> <li>3. 外部条件</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現行 PDM の成果 2 では、「13 市においてパイロットプロジェクトが実施される」となっているが、その事実はない。</li> <li>2. 未設定であった指標を定めた。</li> <li>3. 近づいていた地方選挙の影響を考慮した。</li> </ol>
第 3 年次中間レビュー調査時 (JCC 会議で承認)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象地域の明確化</li> <li>2. ターゲットグループの明確化</li> <li>3. 成果 2</li> <li>4. 指標 2-4 の追加</li> <li>5. 指標達成目標の数量</li> <li>6. 指標入手手段</li> <li>7. 外部条件</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象地域とパイロットプロジェクト地域を定義した。</li> <li>2. 観光委員会/観光協会など。</li> <li>3. パイロットプロジェクトの実施を通じて観光開発に係る知識が向上する</li> <li>4. パイロットプロジェクトの実施を通じて観光委員会/協会メンバーの意識が変化する、を追加</li> <li>5. 目標を 13 市としてたが、実行可能な数値に変更</li> <li>6. いくつかの項目について修正した</li> <li>7. 現状にそぐわない表現を削除した</li> </ol>